



第24回 かわごえ環境フォーラム かわごえ環境活動 報告集



2026年2月28日

かわごえ環境ネット



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ごあいさつ



第24回かわごえ環境フォーラムの開催にあたりご挨拶申し上げます。まず、本誌「かわごえ環境活動報告集」に原稿をご投稿いただいた方及びかわごえ環境活動報告会で発表いただいた方、そして、行事にご参加いただいた方に厚く御礼申し上げます。

1998年3月に策定された川越市環境基本計画に基づき2000年8月5日に設立された「かわごえ環境ネット」では、設立3年目の2003年2月1日に、市民・民間団体・事業者及び行政の環境活動を広く市民に知ってもらうこと、また、特定のテーマに関する議論を行うことを目的として、旧川越市市民会館において第1回かわごえ環境フォーラムを開催しました。その後、やまぶき会館、クラッセ川越、川越西文化会館「メルト」、環境プラザ「つばさ館」と会場を移しながら毎年1回開催され、2016年から会場がウエスタ川越となり、中止となった2020年を除いて10回目の開催となります。

これまでの行事では、各個人・団体のプレゼンテーションによる環境活動報告会とともに、特定のテーマを設定して講演会、ワークショップなどを実施しており、さらに、行事に合わせて本誌「かわごえ環境活動報告集」を発行しております。冊子での発行とともに電子版をインターネットでも公開しており、時空を超えた情報共有媒体となっています。

2月28日の当日は、例年と同様のプログラムを組んでおります。午前の部「かわごえ環境活動報告会」は、本誌に収録した活動報告から一部の個人・団体とかわごえ環境ネットからの報告があります。

午後の部は、「広めよう！環境にやさしい農業」というテーマで講演&意見交換会を実施します。川越市内で活躍中の若手農家3名（小江戸南古谷農園代表の田中邦和さん、いなぽこファーム代表の稲田敏さん、川越ぐうすファーム代表の増田知久さん）に環境にやさしい農業に取り組んだきっかけや実践、将来展望について講演いただくとともに、意見交換会として、飯島希理事の司会進行と3名を中心としたパネルディスカッションとフロアとの意見交換を行います。

第24回かわごえ環境フォーラムの開催にあたっては、前回に続き、川越市の後援とパイオニア株式会社、武州ガス株式会社、株式会社環境総合研究所、初雁興業株式会社、さらに、新規に協賛いただくことになったカナデビア株式会社を含めて5社の協賛をいただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

最後に、みなさまのご健勝を祈念申し上げますとともに、今後とも本会の活動へのご支援とご協力をお願い申し上げます。

2026年2月28日

かわごえ環境ネット理事長 小瀬 博之

目次

ごあいさつ.....	1
目次.....	2
1. かわごえ環境ネットの活動.....	5
1-1 全体事業.....	6
2025年かわごえ環境ネット全体事業報告 [小瀬博之 (理事長)]	7
・第23回かわごえ環境フォーラム (3月1日) [横山三枝子・飯島希]	8
・春の里山 自然観察&クリーン活動 (4月26日) [横山三枝子プラスKさん]	10
・総会・懇親会 (5月31日) [小瀬博之]	11
・川越市内の川の水質調査 (6月8日) [小瀬博之]	11
・かわごえの森であそぼう! 「やってみよう!!ネイチャーゲーム」 (11月29日) [横山三枝子] ..	12
・歳末まち美化活動 (12月21日) [飯島希]	13
・【後援】第26回アースデイ川越 in 昭和の街2025 (3月9日) [小瀬博之]	14
1-2 広報委員会の活動.....	15
2025年かわごえ環境ネット広報委員会の活動 (コラム転載) [小瀬博之 (広報委員会・委員長)]	17
・社会と環境について思うこと (31) めざせ!川越に豊かな湧水と清流を [石山民子]	18
・自然を訪ねて (19) あるクモ屋の履歴書 [平松毅久]	18
・社会と環境について思うこと (32) (仮称)川越市森林公園計画地について思うこと [小林範子]	19
.....	19
・自然を訪ねて (20) 川越版レッドデータブック [賀登環]	19
・社会と環境について思うこと (33) 12月に向けた覚書 [吉田尚平]	20
・自然を訪ねて (21) 子ども主役の「こどもヤマ守り活動」ーふるさとの緑を守り蘇らせる	20
[過昌司]	20
・社会と環境について思うこと (34) お米づくりは風景をつくること [増田知久]	21
・自然を訪ねて (22) 「キノコが見当たらない」に想う [稗島英憲]	21
・社会と環境について思うこと (35) 我が家のプラスチックストロー事件 [小川夕子]	22
・自然を訪ねて (23) 夏を彩る「ごめんなさいポーズ」のクモ トリノフンダマシ編ー [平松毅久]	22
.....	22
・社会と環境について思うこと (36) 環境対話カフェから竹炭作りへ [高澤日美子]	23
・自然を訪ねて (24) 蘇えれーいとしのコナラ [賀登環]	23
・社会と環境について思うこと (37) 温暖化、希望はなくても倫理はある [高澤裕考]	24
・自然を訪ねて (25) ウバタマムシに思うこと [松永裕一]	24
1-3 社会環境部会を中心とした活動.....	25
2025年度 社会環境部会の活動報告 [増田知久 (社会環境部会代表)]	27
・環境対話カフェ2025①「自治会でできる環境活動」 (6月12日) [小川夕子]	28
・雨と緑を楽しむグリーンインフラ PART2 (11月22日) [高澤日美子]	29
・環境対話カフェ「まちと環境の軽やかな動かし方を考えよう」 (2月11日) [小川夕子]	30

1-4 自然環境部会を中心とした活動	31
2025 年 自然環境部会の活動報告 [賀登環]	
1. 武蔵野の雑木林 調査・保全活動	33
2. 池辺公園の調査・保全活動	38
3. 観察会・イベントなどの報告	40
4. 無農薬 田んぼの生き物調査 (小江戸南古谷農園)	45
5. こどもと一緒に林の自然再生を [山中和郎、宮澤宏次、過昌司]	49
2. 学校等・市民・団体の環境活動	53
2-1 学校等の環境活動	54
(1) 川越市のサクラに襲い来る黒い影～クビアカツヤカミキリによる被害について～ [小池ひかる (埼玉県川越女子高等学校生物部)]	55
(2) こどもエコクラブ ワンダーなんだあくらぶ 活動報告 [栗原薫、青柳遥 (ワンダーなんだあくらぶ)]	58
2-2 市民・団体の環境活動	61
(1) 土壌菌解析から見る農の未来と地球温暖化抑制の可能性～環境にやさしい農業が地球を守る～ [増田純一 (NPO 法人かわごえ里山イニシアチブ)、高野文英 (日本薬科大学)]	63
(2) 小江戸南古谷農園～和のこころ、遊ぶ、真似ぶ、学ぶ、お米創り～ [田中邦和 (小江戸南古谷農園)]	71
(3) あらだんガーデン 2025 活動報告 [青柳遥 (みんなの庭プロジェクト)]	72
(4) 庭から始める流域治水～「土中環境改善型浸透ます」1年の記録～ [栗原薫 (グリーンインフラ市民学会、有限会社栗原造園)]	75
(5) 放課後教室「ふくっこ」の環境活動報告 [横山三枝子 (福原ふくっこ運営協議会)]	78
(6) 2025 年 小畔川を楽しむ - 魚類調査と川遊び [小畔川の自然を考える会]	81
(7) 2025 年 川越フォレストクラブの活動報告 [川越フォレストクラブ]	83
3. 付録	85
(1) 第 24 回かわごえ環境フォーラム プログラム	87
(2) 第 24 回かわごえ環境フォーラム ちらし	88
(3) 第 24 回かわごえ環境フォーラム 「環境活動報告集」への投稿・発表者募集	89
(4) かわごえ環境ネット 会則	95
(5) かわごえ環境ネット 会員構成	97
広告	98
パイオニア株式会社川越事業所	98
武州ガス株式会社	98
株式会社環境総合研究所	99
初雁工業株式会社	99
カナデビア株式会社	100

1. かわごえ環境ネットの活動

1-1 全体事業

2025年かわごえ環境ネット全体事業報告

小瀬 博之（かわごえ環境ネット理事長）

2013年度より全体事業を管掌する事業運営委員会を発足させ、全体事業の運営を担っています。「かわごえ環境フォーラム」の運営を中心として、分野横断的な「クリーン活動」「川の一斉水質調査」、(仮称)川越市森林公園の活用などの事業を実施し、さらに懇親会の開催などの付随行事や、協力依頼のあった事業に対して後援や出展により対応してきました。

2003年から実施している「クリーン活動」は、2024年から春と年末の2回となりましたが、20年以上にわたって継続的に実施しています。

また、川越市制施行100周年記念事業から2年間実施した「森フェス in 川越」は、2024年は森林環境の変化から中止としましたが、2025年は『かわごえの森であそぼう！「やってみよう!!ネイチャーゲーム」』というタイトルで趣向を変えて復活しました。

本稿では、2025年実施した次の各事業の概要をお知らせします。詳細は各報告原稿をご覧ください。

主催行事

1. 3月1日(土)に「第23回かわごえ環境フォーラム」をウェスタ川越で開催し、午前の部「かわごえ環境活動報告会」では10件の発表がありました。また、午後の部は、「飯能から学ぶ川越らしいエコツーリズム -伝える、広げる人づくり-」というテーマで、駿河台大学副学長の平井純子先生の講演と司会の飯島希本会理事、横山三枝子、増田知久の本会両副理事長を加えてパネルディスカッションを行いました。(広報かわごえ環境ネット 2025年5・6月号(No.203)の再掲載)。
2. 4月26日(土)に「春の里山 自然観察&クリーン活動」を(仮称)川越市森林公園計画地において実施しました。この活動は2019年から実施しており、2020年は新型コロナウ

イルス感染拡大の影響で中止としましたが、今回で6回目の活動となりました。キンランの花が見ごろですばらしい風景が広がっていました(広報かわごえ環境ネット 2025年7・8月号(No.204)の再掲載)。

3. 5月31日(土)に総会を開催し、終了後に懇親会を開催しました。あいにくの雨模様でしたが、12名の参加で初雁公園の休憩所で懇親を深めました(広報かわごえ環境ネット 2025年7・8月号(No.204)の再掲載)。
3. 6月8日(日)に4名が12地点を分担して「川越市内の川の一斉水質調査」を実施しました。全国で実施している「身近な水環境の一斉調査」の実施日に合わせて2005年から実施しています。(広報かわごえ環境ネット 2025年7・8月号(No.204)の再掲載)。
4. 11月29日(土)にかわごえの森であそぼう！「やってみよう!!ネイチャーゲーム」を(仮称)川越市森林公園計画地において実施しました。ところざわシェアリングネイチャーの会によるネイチャーゲームと本会会員による森で採れた材料を使った工作を行いました。(広報かわごえ環境ネット 2026年1・2月号(No.207)の再掲載)。
4. 12月21日(日)に川越中心市街地の「歳末まち美化活動」を実施しました、本川越駅前から5つのコースに分かれて、中央公民館までのルートを歩きながらごみを拾いました(広報かわごえ環境ネット 2026年3・4月号(No.208)の再掲載)。

後援行事

3月9日(日)に「第26回アースデイ川越 in 昭和の街 2025」が蓮馨寺で開催され、本会が協賛しました。(広報かわごえ環境ネット 2025年5・6月号(No.203)に内容を付加して掲載)

【報告】第 23 回かわごえ環境フォーラム (3月1日)

3月1日(土) 9:30-16:30 にウェスタ川越活動室 1・2 において、「第 23 回かわごえ環境フォーラム」を開催し、午前と午後の部を合わせて延べ 120 名ほどの参加者がありました。また、この行事に合わせて下記報告会のレポートを合

めた「かわごえ環境活動報告集」をフルカラー印刷で発行しました。同時に報告集の PDF 版を右記ホームページに掲載しました。本行事の開催にあたって、今回も川越市の後援、パイオニア株式会社川越事業所、武州ガス株式会社、株

式会社環境総合研究所、初雁興業株式会社の 4 社の協賛をいただきました。



かわごえ環境フォーラム
(<https://forum.kawagoekankyo.net>)

午前の部 かわごえ環境活動報告会

午前の部「かわごえ環境報告会」では、10 件の報告がありました。

(1) 本間嬉(栗原薫・横山三枝子)「子どもエコクラブ ワンダーなんだあくらぶの活動報告」

2024 年 4 月から環境活動のエコクラブで全 5 回の活動の様子を紹介しました。写真の紹介をメインに樹木医の実験、たばちゃん農園のトウモロコシ収穫体験、「わたしたちの雨水フォーラム」連動企画などの発表でした。

(2) 福島櫻子(星野学園小学校 3 年)「水と仲良くしよう～雨水について考える」

8 月の尾崎昂嗣さんのワークショップ「雨水はどこに行くの?」に参加して書いた「夏休みの自由研究のレポート」の紹介。発表することが決まって、新たに調べたこともあり、大人たちを驚かせるプレゼンテーションとなりました。

(3) 小池ひかる・中村碧音・菊池圭(川越女子高等学校生物部)「特定外来生物クビアカツヤカミキリの脅威」

川越市内で 2023 年度に成体が見られ、2024 年度にフラスが発見されたことでサクラを調査。クビアカツヤカミキリを捕獲、標本にし、「日本のサクラ危機」を回避するための報告でした。標本箱の回覧はムシ臭も独特で、参加者の興味を引きました。

(4) 野中和奏・日下友結・瀧口遙(川越女子高等学校生物部)「荒川水系における外来エビと在来エビの分布と絶滅危惧種ヌカエビの保全」

2015 年から準絶滅危惧種のヌマエビ属ヌカエビと埼玉県の外来種カワリヌマエビ属の調査継続と、昨年からの保全活動を始めた報告でした。在来種は、TOPPAN 朝霞工場内のビオトープでの繁殖が成功し、今後の研究につながりましたが、自然の河川では外来種が増えていることが確認されています。

(5) 青柳遥(栗原薫・横山三枝子)「わたしたちのアクション」『あらだんガーデン』ができるまで

新宿町五丁目自治会のコミュニティガーデンができていく様子を報告しました。自治会館を利用した座学、土地の改変等の下準備を含め、高齢者の集いの場として動き始めました。「みんなの庭プロジェクト」は 2025 年も続きます。

(6) 成川正行・丸岡巧美(丸岡技術士事務所)「照明の基礎とその適用例」

蛍光灯から LED 灯に切り替えが進んでいる現在、安全で快適な光環境を実現するための基本事項や適用例について解説がありました。人感センサー動作の説明もあり、日ごろからの光環境の省

エネの大切さを報告。

(7) 丸岡巧美・成川正行(丸岡技術士事務所)「照明の評価とその省エネ例」

LED 灯の計測による実験結果や導入上の課題、省エネ対策事例の発表でした。性能比較や調光による削減電力など具体的な数字を示し、照明設備の電力削減を提案。

(8) 増田純一(かわごえ里山イニシアティブ)「河川に農業や化学肥料を流さない & 環境に負荷をかけないおコメ作り」

2014 年から続く活動報告。7 月の田んぼの生き物調査では毎年点数が上がっていること、日本工学院専門学校との漫画冊子製作、日本薬科大学マコモ成分分析 & 土壌分析研究などの多様な活動を報告。

(9) 増田知久(かわごえ環境ネット)「社会環境部会 + α 活動報告」

環境対話カフェや講演会「雨と緑を楽しむグリーンインフラ講座」、広報紙投稿の報告。

(10) 賀登環(かわごえ環境ネット)「自然環境部会の報告」

本会自然環境部会の活動概要及び絶滅危惧種データ集め等保全活動の報告。

最後に特別セッションとして株式会社パイオニアによるサウンドスケープの実演がありました。(横山三枝子)



(1) 本間さん (2) 福島さん (3,4) 川越女子高校のみなさん (5) 栗原さん横山さん (6) 成川さん (7) 丸岡さん (8) 増田純一さん (9) 増田知久さん (10) 賀登さん

午後の部 講演会・パネルディスカッション

午後の部の前半は、平井純子先生(駿河台大学副学長)による講演会、後半は、パネルディスカッションを行い、登壇者及び会場の参加者も一緒になってディスカッションを行いました。

【前半】講演会「Wellbeing な地域づくり-エコツーリズムをツールとして-」

講師に、駿河台大学副学長の平井純子先生をお呼びし、飯能市のエコツーリズムの取組や 2020 年にフィンランド・オウル大学客員教授として 1 年間

滞在し持続可能な観光や環境教育について学んだこと、現在取り組んでいる放課後児童クラブの運営などについてお話しいただきました。

“Wellbeing”という言葉は近年よく耳にするキーワードです。これは、「身

体的・精神的・社会的に良好であり、全てが幸せな状態であること」を意味するもので、Wellbeing な地域づくりにおいて、今求められていることは持続可能性であり、“sustainable wellbeing”であると平井先生は話してくださいました。それを実践しているのがフィンランドであり、白夜と共に生きるフィンランドの暮らしぶり、家族との暮らしを大切に作る生き方、充実した社会保障とワークライフバランス、何度も学び直しができる社会システムなど、幸福度世界一の国の様子をご紹介いただきました。

里地里山を活用したエコツーリズム先進地といえる飯能市での取組についてもご紹介いただきました。

エコツーリズムとは、環境保全・環境教育・地域貢献含めた観光のことで、エコツーリズムの参加リピート率は、通常 10%程度のところ、飯能市は 50%と高い率を誇っています。そんな飯能市でも、エコツーリズムの課題として3つ挙げていました。1つめはガイドの高齢化、2つめはボランティアの域を超えられない、3つめは自己実現のための活動になっていること。これらの課題を解決するために、2つの改善策を講じてきました。それは「稼ぐ力の醸成」と「高付加価値化」という取組です。具体的には、先生が代表理事を務めている（一社）里山こらぼの放課後児童クラブでの活動やエコツーリズムの企画です。参加費数百円のツアー企画を、5,000円や1万円にしたところ、ツアーにふさわしい服装・装備の参加者が集まるようになり、満足度も高まったことや、居住者にとっての日常は、旅行者にとって非日常であることの再認識から、自然の中での食の提供の仕方を工夫することで付加価値を高めることができたそうです。

エコツーリズムはエコロジーとエコノミー両輪が稼働できるように意識改革をしていくことの重要性を話してくださいました。

【後半】パネルディスカッション「飯能から学ぶ川越らしいエコツーリズムー伝える、広げる人づくりー」

パネリストに、横山三枝子・増田知久両かわごえ環境ネット副理事長と平井純子先生に参加いただき、伝え広げていく人をどう育て作りあげていくか

を中心に議論を進めました。

- ・自分が関わっている活動のほとんどはボランティアだが、近年はそのボランティアをすることができる人が以前に比べ少なくなってきた。
- ・過去にグアテマラで仕事をしていたとき、物がなくても生き抜く力があり、生きることを楽しむ人の様子を見てきた。一方日本は、情報がありすぎるわりに、生きることを楽しんでいる人をあまり見かけない。
- ・ボランティアと事業は違う。
- ・エコツーリズムの参加費が 500円だったり、収穫体験が 150円だったり参加費が安い。
- ・飯能では、エコツーリズムを手がけた市民団体ではボランティアで行うことにプライドがあり、手弁当で実施していたが、次第に疲弊していった。
- ・飯能の初期のエコツーリズムは、林業振興しようという動きで、環境保全中心の内容になっていた。
- ・ボランティアは、自分のためのもの。社会的事業をするなら、お金をまわさないとだめという意識改革が必要。
- ・飯能のエコツーリズムでも 1日ツアーで参加費 2,000円だったころは、参加者の服装が山歩きにふさわしくなかったり、食事に文句を言ってきたりしていた。参加費を 15,000円にしたら、参加者からの文句はないし、山歩きにふさわしい服装で、しかもマイカップなど自分の装備まで持参するなど、客層の質が上がった。
- ・川越は農業のまち。農業系のエコツーリズムを考えたい。
- ・川越は神社・寺院も多いので、駅から歩いて巡るエコツーリズムも企画できる。
- ・水田ツアー、自転車で巡るツアーなど川越らしいツアーが企画できる。
- ・個人の店の市街地巡りツアーを市民向けにできるのではないかな。
- ・日常の中の非日常を提供。
- ・エコツーリズムの持続可能性という視点で考えていく必要がある。低額なサービスをなくす必要はなく、それを例えば市民向けに実施し、高額サービスのジャンルをつくりそれを他県参加者に実施してもいいのではないかな。
- ・ちらしもターゲットによってデザインを変えるといい。ターゲット（市民向け、他市民向け）を明確化する。

・目利きのいいお客様、消費者を作っていくことも必要。呼ぶ層と来る層の違いを考える。

ー議論された意見を踏まえ、「伝える人をどう育てていくか」

- ・伝える人が楽しそうにしていることが大切。
- ・伝える人は意識的に楽しく伝えること。
- ・参加者も伝える人も、一緒に食べて楽しく過ごせるような企画は好ましい。
- ・ガイド養成講座をつくり、環境リーダーを育成していくような計画も提案したい。飯能では年 2 回実施している。
- ・環境リーダーは、知っていることの 5%話せばよいだけ、あとは参加者を楽しませ、自分も楽しむとよい。

3人のパネリスト、そして会場からも議論に参加いただき、伝え広げるための人づくりについて意見をいただきました。これからのエコツーリズムは、ターゲットの細分化、それに合わせた企画やちらしづくりなど手法が多様化する必要がありますが、それに合わせた養成講座を準備することで持続可能な人づくりが期待できると感じました。そして、なんと言っても、自分の日常の中の非日常に気づき、価値を認め、自分自身がそれを楽しむこと。この“楽しむ”ことが人づくりの一番の要になると思いました。

参加者のみなさん、午後に長時間議論に参加いただきありがとうございます。（飯島希）



平井純子先生による講演



パネルディスカッション
（右から左へ、横山三枝子さん、増田知久さん、平井純子先生、司会役の飯島希）

【報告】春の里山 自然観察 & クリーン活動 (4月26日)

今年の活動日は大当たり!キンランが「見て、見て、きれいでしょ」と言わんばかりの豪華さでした。

4月26日(土)9:30から「春の里山 自然観察&クリーン活動」を行いました。今年は「広報川越」に掲載できず、申込者の方が36名から4名に激減してしまいました(この広報不掲載は今後も続くので観察会のお知らせをどのようにしていくのか課題となっています)。しかし、当日は声かけが功を奏して一般参加者が11名となり、総勢15名で活動できました。

現在の(仮称)川越森林公園計画地はキクイムシによる「ナラガレ」の被害も多く、かなり太い落下枝があります。「森

のさんぽ道」も安全ではないので、活動日には必ず頭上に注意をしています。ちょっと前に「ヤマザクラ」が裂けるように割れて道をふさいでいたこともありました。自然に還らないごみは「森のさんぽ道」には比較的に少ないのですが、ブッシュになっている雑木林にはペットボトルや空きかんが投げ入れられています。ごみ箱のない場所なので「お持ち帰り」が基本です。

今回「初めて」の声が多かったのが蛍光カラーにも見える「ホタルガ」の幼虫です。「サワフタギ」の葉っぱは、さながら「ホタルガ幼虫マンション」でした。こんなに多くの幼虫が見られるなんて、ビックリでした。

最後に今回初参加の方(Kさん)の声から「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」のキンラン、ギンランが“見てー”とばかりに背伸びするように咲き誇っている姿は感動でした。また季節を追うたび、新しい感動に出会えることにワクワクしています。」

かわごえ環境ネットでは、毎月第2・4月曜日9:30に川越南文化会館(ジョイフル)ロビーに集合し、観察会や保全活動をしています。緑の雑木林でご一緒にしませんか? 植物や樹木の名前、詳しくなりますよ。

(横山三枝子プラスKさん)



出発前の参加者集合写真



出発直後に見られたヤマザクラの倒木



林内の一角がマレットゴルフ場に変化



本紙 2025年5・6月号(No.203)でカブトムシの幼虫がたくさんいたコナラの倒木



みごとなキンランの群生



サワフタギの葉に群がるホタルガの幼虫



サワフタギの花



少ないですがギンランも咲いていました



ごみの分別作業



拾ったごみとともに終了時の集合写真

【報告】総会・懇親会（5月31日）

総会

5月31日（土）10:00-11:30に川越市立博物館視聴覚ホールにおいて2025年度総会が開催されました。会員数179名に対し出席24名、委任76名の計100名の出席により総会が成立しました。

飯島希理事の司会進行により総会が進められ、理事長の小瀬が議長に選出されて5つの議案について審議が行われました。下記の質疑及び回答、意見がありましたが、議案はすべて異議なく承認されました。

議案第1号 2024年度事業報告

質疑等なく承認された。

議案第2号 2024年度決算報告及び会計監査報告

広報紙の体裁・配布先等について質問があり、A4サイズ8ページのフルカラー印刷で500部を印刷、隔月刊で年間6回発行していること、また、会員への郵送配布のほか、各公民館や学校、イベント等で配布していると回答した。

議案第3号 会則の改正

次年度から口数を1口2,000円とし

て個人会員の会費を1,000円から2,000円に値上げするもの（団体会員は2,000円で据え置きとなる）。

会費未納者の退会については現在規定がないが、適正な支払を求めつつ、今後規定の制定を検討する。

議案第4号 2025年度事業計画

「広報川越」の本会行事の不掲載は、川越市広報室による民間団体主催のイベントを掲載しない判断のため。

「小江戸かわごえ脱炭素宣言」を視野に入れた長期的な視点をふまえた活動については、各事業において念頭に置いて活動している。

市民に広く実践を呼びかける方法については、会員とともに今後議論したい。

「コエドカラー」への行事掲載については、すでに実施しているが効果が不明なので検証が必要である。

その他、生ごみ処理の工夫、カメムシ対策のためのドローンによる農薬散布が行われること、「コエドカラー」の効果など意見・情報提供があった。

議案第5号 2025年度予算

質疑等なく承認された。

懇親会

コロナ禍を除いて、総会後の懇親会は恒例行事となっています。

今回もお弁当を注文して初雁公園の休憩所において12名により懇親会を行いました。昼食後に自己紹介を行いました。みなさんいろいろな活動や知見を持っていて、お互いの人となりを知ることができました。（小瀬博之）



総会の様子



懇親会の様子

【報告】川越市内の川の一斉水質調査（6月8日）

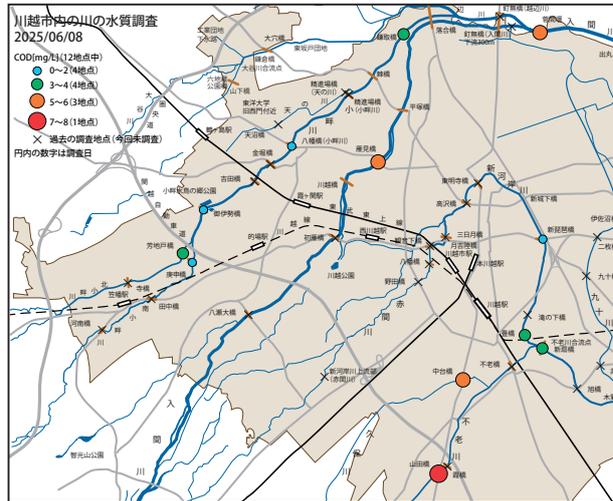
実施概要

全国で実施される「身近な水環境の一斉調査」に参加し、実施日に合わせて川越市内の川の水質調査を2005年以来継続的に実施しています。

今年は6月8日（日）に4名が分担して12地点の調査を実施しました。昨年と異なる地点は、九十川二枚橋から小畔川鎌取橋への1地点のみです。

調査結果

結果は調査日前の雨などの影響を受けるので毎年変動がありますが、全体的には前年よりよい傾向があり、COD（化学的酸素要求量）は、0～2mg/Lが4地点（2024年は0地点）、3～4mg/Lが4地点（同3地点）、5～6mg/Lが3地点（同3地点）、7～8mg/Lが1地点（同6地点）でした。



調査地点とCODの水質調査結果



南小畔川庚申橋での採水の様子



入間川雁見橋の採水の様子



新河岸川畳橋の採水地点の様子



不老川山田橋の採水地点の様子

【報告】かわごえの森であそぼう！「やってみよう!! ネイチャーゲーム」(11月29日)

「ママ! 今日おもしろくないかもって言うてたけど、超楽しいよ!!」こんなふうに言ってくれた8歳の男の子。帰る時間になって「帰りたくない。」を連発していました。(やったあー!!!)

秋晴れを思わせる11月29日(土)(仮称)川越市森林公園計画地でかわごえの森であそぼう!「やってみよう!! ネイチャーゲーム」を開催しました。15組の親子参加があり、運営サイドのメンバーを合わせると70名のイベントとなりました。

場所は川越南文化会館(ジョイフル)駐車場から「森のさんぽ道」を歩いて10分ほどにあるKさんの雑木林です。この3年ほど「くず掃き」(落ち葉掃き)が行われていないようなので、近年のナラ

枯れによる落下枝が心配でしたが、「川越フォレストクラブ」(奇数月の第2水曜日が活動日: 詳細は本紙7ページをご覧ください)の協力で安全なスペースを確保しての開催でした。

今回初めて協力していただいた「ところざわシェアリングネイチャーの会(公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会所属)」の方たちによる「ネイチャーゲーム」の数々は、大声を出すアイスブレイクに始まり、雑木林の隅々に目を向けるアクティビティでした。いわゆる公園ではできない雑木林(多種の木々、実生の木、かわいい鳥の声、ハラハラ落ちる枯れ葉など)だからこそその楽しみ方です。

例年通り(2022年・2023年は「森

フェス」として開催しました)、かわごえネット会員は、落ち葉のスタンドグラス(きれいな葉っぱは外部から集めたもの)、丸太切り、竹ぼっくり作り、どんぐりトロの4か所、親子が一緒に行う工作活動のために準備しました。

絶滅危惧種が多く残るこの雑木林も、世代交代や農家のあり方などで毎年変わっていきます。平地林にかかる相続税がたいへんという話も聞きます。この雑木林を残していくには、より多くの市民がこの雑木林の価値を知ることだと思います。来年もこのようなイベントを通じて、子どもたちに故郷川越のよさを知ってほしいと思っています。

(横山三枝子)



受付は地元の高校生にお願いしました



会場全体の様子



ちやいろの葉っぱを探すネイチャーゲーム



葉っぱ探しの様子



誰かにプレゼントしたい葉っぱを見せ合う



最後にフィールドビンゴを実施



どんぐりで工作



丸太切りでどんぐりの台座を作る



どんぐりトロ



落ち葉のスタンドグラスづくり



できあがった落ち葉のスタンドグラス



竹ぼっくりづくり

【報告】 歳末まち美化活動 (12月21日)

12月21日(日)に、43名のみなさんと歳末まち美化活動を実施しました。例年晴天に恵まれている歳末まち美化活動ですが、今回は珍しく雨が降りそうな曇り空。でも解散する昼近くには日差しもこぼれ、冬とは思えない暖かさにも恵まれました。

開催経過

9:30に本川越駅交番付近に集合した参加者は、市民、かわごえ環境ネットワーク会員、武州ガスとその関係会社の方々など5歳～70歳代と幅広い年齢層でした。小瀬理事長の挨拶の後5つのコースに分かれ、まち美化活動を開始。収集したごみは、ゴールとなる中央公民館

で分別し11:30に解散しました。ゴールの中央公民館に一番乗りしたのは、お父さんと参加した男の子たちでした。「1番だ!」と言って姿をあらわしたその笑顔がうれしかったです。参加いただいたみなさま、まち美化にご協力ありがとうございました。

(飯島希)



開始時の参加者集合写真



コースマップ
(地理院タイルを使用)



Aコースのみなさん



Bコースのみなさん



Cコースのみなさん



Dコースのみなさん



ごみ拾いの様子



Eコースのみなさん



分別したごみの前でスタッフ一同

開催概要

アースデイ川越は、第1回から2023年の第25回まで秋に開催されてきましたが、この時期は催事が重なり準備が難しいため、春開催として1年以上にわたり準備を進めてきました。

第26回アースデイ川越 in 昭和の街2025は、3月9日(日)10:30-15:30に「川越のミライ」のテーマで開催し、好天に恵まれて500名ほどの来場者がありました。特にメインイベントとして14:00-15:00に開催された森田初恵川越市長と高校生3名による「川越市長×高校生によるパネルトーク」は、100名ほどの参加者があり、大いに盛り上がりました。高校生も多数出展したワークショップのほかに、「川柳コンテスト」(本会の神谷利一監事が川越市長賞を受賞)など新たな取組も行いました。

実施内容

《鐘つき堂 special ステージ》

10:30-10:40 開会式

11:00-12:30 だれでも!ピアノチャレンジ [小江戸川越夢ピアノプロジェクト]

13:00-14:00 新 川越市長×高校生によるパネルトーク

13:55-14:15 川柳コンテスト表彰

15:20-15:30 閉会式

《ワークショップ出展者と出展タイトル・内容》

①仙波書房×東洋大学地域活性化研究所:まち歩きツアー「昭和の街のたてものめぐり」

②笑足屋(わらじや):はたきを作ってエコな生活をはじめよう!／「あしなか」をはいて健康せいかつ!

③かわごえ環境ネット:木工ワークショップ～森の手入れから出た材料をいかそう!～

④NPO法人かわごえ里山イニシアチブ×第一学院高校川越キャンパス:『生きもの育む田んぼプロジェクト』

⑤城北埼玉中学・高等学校:水耕栽培×水の生きもの「アクアポニックス」展示／ゆるスポーツミニ EXPO

⑥中高生別学協議会:教育の多様性とは～グループワークを通して多様な視点から教育について考えよう

⑦次世代SDGsラボ:「どこでも食堂 in 川越」の実現に向けて来場者の意見を聞く

⑧ Re New M:インスリン注射生活を楽しく!～糖尿病について遊んで学べるキッズスペース

⑨埼玉YMCA:みんなであそぼう!「モルック体験&UNO(ウノ)」

⑩川越不登校親の会:ハンドメイドでSDGs!古着を使った織物&タッセル作り

⑪埼玉県水環境課:埼玉県の河川いきもの(魚類)調査パネル展示&解説

⑫生活クラブ川越支部:こねこねせっけん作り/サスティナブルなビン入り牛乳試飲会

《昭和の街フード&カフェ出展者と内容》

①大黒屋食堂:安全安心な食材を使ったカレーライスやけんちん汁をデポジットな器で

②フクフクスタンド:国産米粉100%ワッフル&手づくりおむすび(ドリンクタンブラー持込割引あり)

③トシノコーヒー:コーヒー、カフェオレ、コーヒー豆チョコ(タンブラー持込込み割引あり)

④ワインスタンドPON!:無農薬無肥料の鳩山の農家tackfarmさんの野菜とジンジャーエール、菊芋のポターージュワイン(添加物&環境負荷低減のため箱ワインから提供)

《川柳コンテスト》

『川越のミライ』のためにできるあなたのアクション」をお題とした川柳コンテストを実施しました。応募件数は51作品で、実行委員会参加者18名により1次審査で11作品を入選とし、さらに川越市長による「川越市長賞」の選定と会場投票による「昭和の街賞」、パネ

ルトークで登壇した高校生の選定による「ミライ賞」の3賞を選定しました。

川越市長賞「赤間川 蛍飛び交う川になれ」 重版出来(じゅうはんしゅつたい)

昭和の街賞「蔵の町 ゴミは捨てずに通りゃんせ」 あぶらやのまご

ミライ賞「認知症 みんなで呆ければ怖くない」 スマイリーのぶ

その他入選作品

「雨水を 地面に流す 活動家」 ほうきみき

「エアコンを切り風鈴と 夕涼み」 いこりん

「川越は ゆっくり走ろう ママチャリで」 スマイリーのぶ

「蔵の街 歩いて探る マイアクション」 しのたろうの夫

「食べ残し 目を光らせる ロス疑惑」 フォーカス

「残したい 温故知新が 息吹く街」 きりん組

「持ち帰ろう ゴミのないまち 蔵のまち」 あぶらやのまご

「ゆずり合い あふれる小江戸に 笑顔咲く」 いこりん

(小瀬博之[アースデイ川越実行委員長])



かわごえ環境ネットの出展



川越市長×高校生によるパネルトーク

1-2 広報委員会の活動

2025年かわごえ環境ネット広報委員会の活動（コラム転載）

小瀬 博之（かわごえ環境ネット広報委員会・委員長）

広報委員会では、2000年12月から2006年7月まで3か月に1回の「かわごえ環境ネット会員通信」を23号、2006年11月から2021年12月まで「月刊かわごえ環境ネット」を182号発行しました。

現行の8ページフルカラー版の「広報かわごえ環境ネット」は、月刊からの号数を引き継いで2022年1・2月号（No.183）から最新号の2026年1・2月号（No.207）まで、4年余りに25号発行しています。

8ページの紙面構成はおおよそ次の表の通りとなっています。

表 「広報かわごえ環境ネット」の目次構成

1ページ	表紙・目次・「残したい川越の風景」の写真と説明
2-3ページ	発行月の前月上旬頃までの報告記事
4ページ	コラム
5ページ	全体事業など主な行事等の予告
6ページ	かわごえ環境ネットからのお知らせ（理事会・専門委員会からの報告、予告）
7ページ	会員からのお知らせ
8ページ	イベントカレンダー（紙面に掲載されている発行月と翌月の2か月間の行事等をカレンダー形式で一覧に）、ミニコラム（ボタニカルアート）、その他短信

本項では、これらの記事のうち「コラム」を転載します。2025年1・2月号（No.201）から最新号2026年1・2月号（No.207）の7号分を掲載しています（No.201は2025年版本誌の再掲）。この後の記事は紙面レイアウトのままです。順序は前後しますが、ここでは原稿を依頼している社会環境部会と自然環境部会の部会ごとにタイトル（著者）を一覧します。

社会環境部会コラム

- 社会と環境について思うこと(31)めざせ！川越に豊かな湧水と清流を（石山民子）2025年1・2月号（No.201）
- 社会と環境について思うこと（32）（仮称）川越市森林公園計画地について思うこと

（小林範子）2025年3・4月号（No.202）

- 社会と環境について思うこと（33）12月に向けた覚書（吉田尚平）2025年5・6月号（No.203）
- 社会と環境について思うこと（34）お米づくりは風景をつくること（増田知久）2025年7・8月号（No.204）
- 社会と環境について思うこと（35）我が家のプラスチックストロー事件（小川夕子）2025年9・10月号（No.205）
- 社会と環境について思うこと（36）環境対話カフェから竹炭作りへ（高澤日美子）2025年11・12月号（No.206）
- 社会と環境について思うこと(37)温暖化、希望はなくても倫理はある（高澤裕考）2026年1・2月号（No.208）

自然環境部会コラム

- 自然を訪ねて（19）あるクモ屋の履歴書（平松毅久）2025年1・2月号（No.201）
- 自然を訪ねて（20）川越版レッドデータブック（賀登環）2025年3・4月号（No.202）
- 自然を訪ねて（21）子ども主役の「こどもヤマ守り活動」—ふるさとの緑を守り蘇らせる（過昌司）2025年5・6月号（No.203）
- 自然を訪ねて(22)「キノコが見当たらない」に想う（稗島英憲）2025年7・8月号（No.204）
- 自然を訪ねて（23）夏を彩る「ごめんなさいポーズ」のクモ—トリノフンダマシ編—（平松毅久）2025年9・10月号（No.205）
- 自然を訪ねて（24）蘇えれ—いとしのコナラ（賀登環）2025年11・12月号（No.206）
- 自然を訪ねて（25）ウバタマムシに思うこと（松永裕一）2026年1・2月号（No.207）

【社会環境部会コラム】社会と環境について思うこと (31) めざせ!川越に豊かな湧水と清流を

10月末、東京都で唯一「平成の名水百選」に選ばれた「落合川と南沢湧水群」のフィールドワークにとあるご縁で参加した。集合場所は本川越から30分ほどの東久留米駅。駅から少し歩いたところでもう清流の落合川に出られ、あちこちで湧水を見つけることができた。

湧水を水源とする落合川は、黒目川に流れこんだ後、新河岸川と合流する。今年、長年シルバーガイドをしてきた父が「舟運が支えた川越藩と江戸との取引」を自費出版した。その中に「湧水を水源とした新河岸川は季節に影響を受けず流量が安定していたため、江戸にとって重要な舟運であった」と記されている。川越が新河岸川の舟運で栄えたことは知っていたけれど、湧水ゆえに安定的に富がもたらされたことは知らなかった。

フィールドワークの後、月吉陸橋を車で渡った。下を流れる新河岸川は私の子ども時代よりはきれいになっているけれど、清流とはほど遠い。清らかな湧水

があふれ、流れ出る地であったはずなのに、それを失ってしまったのはなぜか?考えられる理由は二つ。下水道整備が早かった川越市街地は、雨水と下水を合わせて管で流す合流式で、降雨時には汚水の一部が新河岸川に流れ込んでしまうから。もう一つは、東久留米のように「多様な自然環境を残すための湧水地と樹林の保全」に取り組んできていないから。

下水道を分流式にすることも、市街地を雑木林に取り戻すことも簡単ではない。莫大な費用がかかる。でも、市民レベルでお金をかけずにできることもある。それが、雨を貯め、土に浸み込ませ、下水に雨水を流さないことだ。

11月末、かわごえ環境ネットの会員として「雨と緑を楽しむグリーンインフラ講座」を企画から担当させていただいた。墨田区を拠点にする雨水市民の会、川越市上下水道局、事業者、市民の夢のコラボ企画となった。

12月初旬、家族と共に東久留米を再

訪。20歳の娘も自然と清流を大いに楽しみ「こんなきれいな水が流れる街になるならどんな努力もするのに」と話してくれた。目標にできる場所を見て楽しんでもらうのが一番いいみたいだ。

(石山民子)



南沢緑地



住宅地を流れる落合川



12月初旬、娘が現地撮影した写真

【自然環境部会コラム】自然を訪ねて (19) あるクモ屋の履歴書

クモに興味を持つようになったのは、大学2年の時だった。偶然肩に止まったハエトリグモの美しさに心惹かれ、大学の図書館にあった図鑑で名前を調べたのがきっかけである。漆黒の頭胸部と歩脚、明るい赤褐色で毛並みの良い腹部。それはネコハエトリの雄であった。その後、吉倉真著「クモの不思議」を読みクモへの関心は高まった。研究室配属後、コガネグモ類とジョロウグモを材料にマニアックな研究をしていたが、40年近く前の当時も即戦力を求める企業側はお呼びではなく、先生の伝手でやっと就職が決まり川越に出てきた。最後の思い出にと参加した日本蜘蛛学会宮崎大会では「木乃伊取りが木乃伊」になって深みにはまり、現在に至っている。

筆者にとってのクモの魅力は、生活様式の多様さにある。顕著な例を挙げると、出入口に開閉式の戸蓋を付けるトタテグモ類、他のクモの網に侵入するイソウロウグモ類、投げ縄でガを捕えるイセキグモ類、クモやアリなど特定の分類群を専食するクモ、抜群の視力を駆使して餌を捕えるハエトリグモ類など枚挙にい

とまがない。これらクモの多様性に大きく寄与しているのが糸を作り出す能力であろう。網を作るクモはわかりやすいが、地中性のクモは巣穴の裏打ちや戸蓋にも糸が使われているし、徘徊性と呼ばれるコモリグモ類、ハシリグモ類、ハエトリグモ類も移動中に命綱として糸を出し、元の場所に戻る際に「命綱」を辿る。そもそもほぼすべてのクモが卵を包む卵のうに糸を用いるので、クモと糸は切っても切れないものと言っていいだろう。

多くのクモの中で特に筆者の興味を引いたのが、体長1~2mmサイズのカラカラグモ類で、小さな分類群ながら多様なタイプの網を張るクモを含有する。2020年に南西諸島を含む未記載種が新種記載されたが、そのうちの1種に入間市が基準産地で筆者が偶然発見したアメイロカラカラグモが含まれており、命名者の一人として名を連ねたことは望外の喜びであった。どんなクモか説明すると長くなるので、興味のある方は、インターネット

で“The Slingshot Spider”で検索して動画をご覧くださいことをお勧めする。属は違うが、網の構造と餌捕獲法は同様である。川越市ではカラカラグモ類は未記録だが、先述のアメイロを含め2~3種は見つかる可能性がある。

筆者も元々はクモが好きではなく、夜に軒先で網を張るオニグモには畏れに近い感情を抱いていた。人生わからないものである。冒頭で記したネコハエトリのエピソードだが、当時競馬に熱中していた筆者が馬の毛色にネコハエトリを重ねていたのはここだけの話。

(平松毅久)

注) Slingshotとは「ぱちんこ」(鳥などを打ち落とす武器の方で、娯楽の殿堂に非ず)の意



コガネグモ♀成体



ネコハエトリ♀成体

今から数年前、(仮称)川越市森林公園計画地(以下、計画地)の森フェスに参加、森の中で音楽を奏でたことがご縁となりました。市議会議員となって2年、都市における樹林や緑化の重要性を強く意識するようになり、令和6年12月議会での一般質問のテーマにしました。以下は、その質疑の大略で、今後も考察を深めてゆきたいと思っています。

計画地は、市の南部に広がる武蔵野の名残りを留める貴重な雑木林で、保全・活用計画が平成2年度に策定されましたが、その後、希少な動植物が多く発見されたことを踏まえ、平成15年度に見直しが行なわれましたが、計画は一向に進んでいません。

計画地の面積は約40ha、そのうち雑木林が約30haです。そのうち、川越市所有は約1ha、川越市土地開発公社の所有は9ha。つまり、全体の約25%に過ぎません。整備が進んでいない理由は、公園の規模が大きく、全体の整備を行うためには大きな事業費が必要となるからです。

そして、地権者が約100名。このうち高階地区、福原地区などの近隣住民の方が

約70名です。地権者にとって、樹林地の所有により樹木や下草刈り等の日常管理が必要になること、また道路や隣地への倒木や枝折れ等の緊急対応なども負担になっているようです。

さて、森林整備及びその促進に関する財源として森林環境税が創設され、国税として私たちは年額1人1000円が徴収されており、その結果、川越市には令和4年に3816万円の森林環境譲与税が与えられています。

市ではこれまで、森林環境譲与税を主に木材利用促進費用に当ててきましたが、これにとどまらず、今後、人材育成講座、普及啓発講座や森林環境プログラムにも活用できる見込みがあります。

計画地内の土地の取得や整備に森林環境譲与税が活用できるかどうかについても質問しましたが、他の自治体や林野庁を始めとした関係部署に確認して判断することでした。

次に、世界農業遺産「武蔵野の落ち葉堆肥農法」に取り組む農家は、川越市では20軒です。落ち葉堆肥

農法を、今後、市の産業として活用するために、実践している農業者の継続に向けての支援として、令和6年度からナラ枯れ防除対策支援補助金が実施されています。

新たに落ち葉堆肥農法に取り組む意向のある農業者に対しては、実践農業者認定制度や支援策等を説明し、普及啓発に努めるとのことでした。

最後に、平成15年度の計画見直しから20年以上が経過し、市民ニーズ、社会状況も変わってきていることから、計画の方向性を定めるため、新年度から、地権者・行政・環境団体・専門家等で構成される協議会を設置する方向で検討が始まるということになりそうです。行政も農政と環境、公園と3つの課にまたがるため調整も必要ですが、今後を大いに期待しています。

(小林範子)



「2022 森フェス in 川越」でのコンサート(11月19日)

【自然環境部会コラム】自然を訪ねて(20)川越版レッドデータブック

近年「一番暑かった夏」が更新され続けていて、このような状況で生き物にも異変が起こっています。春の終わりから初冬まで、主に外来の強豪植物が大量繁殖しています。放棄耕作地、土手筋、道路脇は言うに及ばず、雑木林の中もまたしかりです。このような中で在来の生き物が生息していくのは大変です。

川越にはどれくらい絶滅危惧種(RD)が生息しているのでしょうか。2017年からの川越市による「かわごえ生き物調査」では、植物は全種リスト850種のうちRDは44種、昆虫は全種リスト700種のうちRDは35種です。埼玉県ではそれぞれ植物全体2300種のうちRD764種、昆虫11006種のうち560種ですから川越には珍しいものはとても少ないといえるでしょう。さらに県の絶滅危惧種に指定されていないものでも、川越ではすでにとてもレアになっているものも明らかになってきました。報告件数が少なく、生息場所も限られていて個体数も少ない、このようなものは川越版「準絶滅危惧種」と言えます。これを自然環境部会では「希少種

”と名付けました。今年度、自然環境部会では事業の一つとして「川越版レッドデータブック試案」を冊子としてまとめています。

オドリコソウは以前どこにでもあった植物で、地方の田舎に行くとよく見かけます。しかし、川越では今や「(仮称)川越市森林公園」計画地と川越水上公園でしか確認されていません。まさに川越の希少種と言えましょう。また、ウマノスズクサやワレモコウも土手筋によくありますが、最近は機械での草刈りが頻度を増し、次第に姿を消しています。これも希少種と言えましょう。合わせて11種ほど選定しています。

川越のRD44種のうち、安泰なもの少ないです。わずか数株のみというものもあります。ラン科が13種を占めていますが、そのほとんどは「(仮称)川越市森林公園」計画地に生息してお

り、この地は他種も含め質・量とも川越のかなりの貴重種を擁しています。ここを失うことは川越の宝の山を失うこととなります。このたび、16年ぶりに新しい市長が誕生しました。なかなか進まない「(仮称)川越市森林公園」計画地を自然遺産としてきちんと残すよう切に願います。

(賀登環)

出典：1)埼玉県レッドデータブック2011植物編、2)埼玉県レッドデータブック動物編2018



オドリコソウ保護エリア



日高県道わきのワレモコウ



オドリコソウ



日高県道わきのウマノスズクサとジャコウアゲハの幼虫



冊子の表紙

私は霞ヶ関の角栄商店街にある小さなお店の店主です。一方で、霞ヶ関北自治会の理事として環境部の部長を務めてもいます。前者の立場では民間事業者として建築やデザインの側からまちづくりを行い、後者の立場では市民として自治(タウンシップ)に関わっています。

そんなことをしていると、市内の民間事業者の利益を求めるコミュニティに属することになったり公共に関わろうとするボランティア的なコミュニティに属することになったりします。私の視界からは、その2つのコミュニティが価値基準の違いゆえに、悪い場合には関わることがなく、よい場合でさえ様々な場面で対立しているように見えています。

そして、私自身もどちらの立場なのかと問われ、身が裂かれるような場面に出くわすことも少なくありません。

そんな時、いつも思い出すのは1927年生まれの山本学治さんという建築史家の文章です。

「風を飛翔させるのも糸であり、風の飛翔を阻むのも糸である。(…)

現在の日本の建築は、その糸を断ち切

ろうとうずうずしている。この糸を断ち切らねば高い自由な飛翔ができないと、自分らを台地に結ぶ糸をうらめしく見つめて身悶えする。私らはより高く、一番高く、飛翔する風にあこがれながら、電線にぶら下がる自由を求めている。(…)

自身を台地に結んではなさない風の糸こそ私らの設計(デザイン)の出発点である。」

ここで言われている「風」と「糸」は、それぞれ「日本のモダニズム」と「世界のモダニズム」という建築潮流のアナロジーです。戦後の日本建築界が先進的な欧米建築にあこがれ、信頼し、拠り所としながらも、それでは一体私たちとは何者であったのかとアイデンティティを自問する絶望が深く表現されています。

しかし、それから半世紀以上の時が経ち、皆が共有できる大きな物語を失った現代を生きる私にとって「風」と「糸」は違う景色の中にあります。

それは国家や市民というアイデンティティ(=「糸」)を自ら断ち切り、あるいは失い、自由になりたいと願う無数の小さな個人やコ

ミュニティ(=「風」)が、高く翔ぼうと空を埋め尽くし、ぶつかり絡んで沈んだり、逸れてどこかへ消えていくような景色です。

先に述べた、民間事業者と公共に携わる(関わる)2つのコミュニティも、そして私自身も、大きな枠組みで捉えてみれば無数の「風」のひとつにすぎず、ふらふらと一時的に浮かんでいるだけのような気がしています。

だからこそ私は、山本学治さんが言うような「糸」とそのデザインを、「風」が強くてぶつかって壊れたりはぐれて消えてしまわないような、それでいて自由な飛翔が感じられるような信頼できるものとして捉えたいのです。

切っても切り離すことができないこの台地(大地)そのものを、あるいは人間社会を含めた広義の「環境」を「糸」としてデザインする、その一員として今後も活動を続けていきたいと思っています。(吉田尚平)

*引用 山本学治「風の糸」『現代建築論—史論としての展開』所収、彰国社、1968年、10-18ページ



霞ヶ関北自治会より
風揚げのようす

【自然環境部会コラム】自然を訪ねて (21) 子ども主役の「こどもヤマ守り活動」—ふるさとの緑を守り蘇らせる

私たちは、川越で歴史と文化のシンボルとして指定された「ふるさと緑の景観地」の一角で、生物多様性に配慮し、世界農業遺産の「落ち葉掃き農業」を支援し、順応的な管理を基本にコナラを育成し、ふるさとの雑木林を復活させることをめざしてきました。

この林で、小学生を対象に「こどもヤマ守り活動」に取り組み、林の利用に必要な活動の「枯れ木集め・焼却、下草刈り、落ち葉掃き」を行い、コナラ林の再生に「コナラの移植とアカメガシワなどの高木を伐採する」活動を組み合わせる多彩なメニューを準備して、固定したメンバーで系統的かつ体験的な活動を行ってきました。

市広報や口コミで集まった6名のメンバーは、自然大好きで外で遊ぶことがたまらない子どもたち集団です。林の活動に慣れるとその行動や能力が発揮されました。県の緑の活動支援の助成金を活用して必要な道具類を購入し、お楽しみの食材費は参加費を払って活動しました。

その内容は、枯れ木を集め、林に作った大きな穴で燃やします。燃やした後のオキ火でお楽しみの焼き芋、マシュマロ焼き、ピザなどを調理する熱源として使い、環境を考えて、材料は地元の有機農家やお店で購入し、そして自分たちで手作りしました。

下草刈りは、林床に生えた野草を中鎌で刈り、林の脇にまとめます。落ち葉掃きは、伝統の熊手を使って落ち葉を集めて林内に積み上げます。これは楽しみのバンジージャンプの着地クッションとして使いました。林の再生に必要な苗木は、実生から育成した苗を使い移植しました。また、コナラの生育を阻んでいる高木をみんなで伐採して、その木は切断して鉛筆立てとマグネットに加工しました。

この活動での成果は、子どもたちが雑木林の自然に触れたことです。体験で知ったことで未来の自然を守る大きな一歩になることでしょう。

(過昌司 [福原水と緑の会])



下草刈り



落ち葉掃き



コナラの植林



木の伐採

「お米づくりは風景をつくること」というコンセプトで川越の西部、笠幡地域において、農薬・化学肥料を使わない稲作を始めて5年が経ちました。このコラムの原稿を書いているのは6月上旬、田植えの直後です。小畔川の豊かな水をたくわえた田んぼには、たくさんのオタマジャクシやホウネンエビ、ヤゴや小さなゲンゴロウなどの姿を見ることができ

ます。始めたばかりのころは、約1,500m²の田んぼで家族と身近な友人たち分のお米の収穫量でしたが、人にも生きものにもやさしいお米づくりを広めていきたい、川越の地で自分自身の手で少しでもよい環境をつくっていきたいという想いから、毎年作付面積が増えていき、今では約15,000m²と5年前の10倍の面積でお米を育てています。私たち人間が生きていく上で最も大切な「食」、この食が育まれていく過程でいかに環境に配慮していくことができるか、自分にとって大きなチャレンジです。

世の中では「令和の米騒動」と呼ば

れ、お米が広く注目を集めていますが、自分自身でお米を育てて感じるのは、生産者である農家の苦勞が適切に評価されず、適正な価格で農産物を流通するしくみがまだまだ日本では確立されていないなということです。弥生の時代から連綿と続く農の営みは、本当に価値のあるものです。一方で、分業が進んだ現代社会では、生産現場である農地の様子がなかなかイメージできない人も多くなっている気がします。農業をはじめ前の僕自身もそうでした。実際に自分自身で農の経験を積んでいくことで、農にまつわる解像度が高まっていきます。自然の循環に寄り添った農業には不確定な要素が多くあり、そういった状況の中で、農産物を育てている農家を支えていくためのしくみが充実していけばいいなと期待しています。

そういったしくみづくりをしていく第一歩として、僕は「風景」というキーワードを通じて、つくる人と食べる人をつなげていきたいと考えています。私たちがこれからの世代に伝えていきたい

風景、残していきたい風景には、人の営みと豊かな自然が調和したものが多くあるでしょう。僕らが日々食べている食事は、どんな風景のなかで育ってきたのだろうか、そんなことを考えていると、農とのつながりが深まっていくのかと思います。(増田知久)



田植えの様子

【自然環境部会コラム】自然を訪ねて (22)「キノコが見当たらない」に想う

「いつも見ているキノコが見当たらない」と3年ぐらい前から感じています。(仮称)川越市森林公園計画地(以下川森と呼ぶ)は350年も続く人が育てた雑木林で、川越市内では最大の40haの面積を有します。かわごえ環境ネットは20余年前から、保全活動や種々の観察会を続けています。ところで最近、この森に小さな異変がいくつか重なって生じています。川森はそれ以前は野鳥の宝庫であり夏鳥、冬鳥の飛来地として、また年間を通して留鳥の多い林でした。

この森の40年間の変化を思い出すまま並べると次のようになります。

①林内薄暗く、歩く人はいなかった(1982年)→②マツクイムシで赤松の大半が被害、伐採され林内が明るくなった→③バードウォッチングの適所として種々の観察会が続く→④オオタカ営巣の赤松大木がなくなり、杉や檜に移るが毎年営巣(今は営巣ゼロに近い)→⑤「森のさんぽ道」設置で散歩者が増える→⑥留鳥、夏鳥、冬鳥とも野鳥激減で野鳥観察会はできなくなる→⑦コ

ロナ発生(2020年)、森のさんぽ道にマスクの人が増える→⑧キノコが見当たらないことに気付く(2023年)→⑨ナラ枯れ発生(2020年8月)→⑩ナラ枯れ木、伐採撤去始まる→⑪林内風景が変わって見える(2025年現在)。ここで、⑧のキノコが見当たらないということを考えてみます。林内をブラ歩きする時に普通に見かけたはずのキノコに出会えないという意味で「様子が変わり」と感じたことです。

キノコとは菌類の「花」に当たりますが見当たらないキノコの名前を列挙してみます。菌根菌ではカワリハツ、ツチカブリ、ヤマドリタケモドキ、シロオニタケ、ツルタケ、ドクベニタケ、クロハツ、オキナクサハツ。腐生菌ではイタチタケ、ヒメカバイロタケ、ザラエノハラタケ、ウスキモリノカサなどです。

その理由ははっきりはわかりませんが、特に菌根菌について考えてみます。思いつくことは、戦後80年、一度も萌芽更新を行っていない事実です。15年～20年ごとに繰り返された森の若返り

作業が途絶えてしまったこととなります。

森は樹木の高齢化により、地上部分の衰えはもとより、地下土壌の微生物のネットワークにある種の異変または限界が生じ始めてしているのではないかと心配されます。菌根菌のはたらきが森林動態とどのように関連しているのかわかりませんが、コナラ二次林が将来的にも多面的機能を発揮して地域における生物多様性保全に役立つよう願わざるを得ません。このキノコの小さな異変はそれら保全の危険信号とも言えるのかも知れません。近々、予定されているキノコ観察会が参加した子どもたちを喜ばせてくれるよう、さまざまなキノコの姿を期待したいと願っています。

(稗島英憲)



ムラサキヤマドリタケ センボンイチメガサ

私には息子がいる。3年ほど前、彼に何気なく話したある地域の給食用ストローの話。その地域ではプラスチックフリーの活動として給食でストローを使うをやめた小学生の活動をきっかけに、今ではその地域ではストローなしで飲める牛乳パックになったという素敵な話だ。

その話の後、「やってみたら?」と聞いてみたら「やってみようかな〜」と彼の脱給食用ストローが始まった。やってみると、直飲みの方がおいしらしい。そして、おもしろがって同じように直飲み仲間が何人か増えたと楽しそうに話してくれていた。彼が3年生のときの話だ。

事件は5年生になったときに起きた。「お行儀が悪いからストローを使って飲みなさい」と言われたから学校に行きたくないという。2年間、当たり前のようにプラスチックストローを使わず、そこに少し誇らしさも感じていた彼にとって、とってもショックなできごとだったようだ。「言えばわかってもらえるよ。」と促したが、うまく伝えることができなかつ

たようで、私が学校へ出向くこととなった。

担任の先生と話してみたところ「学校で決まったことだから...」と困った様子。他のクラスの先生方も集まってきてしまい、何だか大ごと。そして、どの先生も「学校で決まったことだから...」と。なかなか話が進まない。結局、家からステンレスストローを持っていくことで、一件着落となった。

と、事件はここで終わりではなく、1年後の彼が6年生になった年、なんと給食の牛乳がストローなしで飲むことを前提とした牛乳パックになった!今では彼はまた牛乳パックから直飲みで給食の牛乳を楽しんでいる。「僕のおかげだな」と息子が自慢げに一言。

もしストローレス給食用牛乳パックをご存知でない方がいたら「School POP」で検索してみてください。開封しやすく、飲みやすく、と工夫された牛乳パックです。

(小川夕子)



ストローがいらない紙パック School POP® の開け方

©2021 日本製紙株式会社紙パック営業本部

出典 日本製紙: カートラボ「School POP 研究室」
(https://www.nipponpapergroup.com/cartons_lab/school_pop/)

編者注: 寄稿された原稿には上記の画像はありませんでしたが、「引用」のルールに基づき、編者の責任において掲載しました。

【自然環境部会コラム】自然を訪ねて (23) 夏を彩る「ごめんなさいポーズ」のクモ トリノフンダマシ編

トリノフンダマシというクモがいる。「鳥の糞騙し」の意であり、確かに色合いが鳥の糞に見えなくもない。標準和名「トリノフンダマシ」を含むトリノフンダマシ類は国内に2属7種が知られ、南西諸島にのみ生息するマギイトリノフンダマシを除く6種が埼玉県でも記録されている(このうちサカグチトリノフンダマシ属2種、サカグチとツシマはレアものでめったに見られない)が、川越市ではシロオビトリノフンダマシのみである。読者諸氏も一度探してみられてはいかがだろうか。

トリノフンダマシ(以下トリフンと略す)類は里山や河川沿い、沼や池の周囲など湿度の高い環境に生息し、日中は広葉樹やイネ科植物の葉裏で静止しているが、角のとれた逆三角の大きな腹部は一般的なクモのイメージとは異なる愛らしさがあり、前脚2対を揃えて静止する様は「ごめんなさいポーズ」を連想させて微笑ましい。

トリフン類は夜間にのみ地面と水平

な丸い網(円網)を張る。見た目はオニグモなどの円網と似ているが、非常にユニークな特性を持つ。主な餌であるガが網にかかると、粘着物質の付着したヨコ糸の片側が切れて垂れ下がり、餌は宙吊りになる。もがくガを尻目にクモは悠々と餌に近づく。普通の円網にはこのような「切れる構造」はなく、ガは鱗粉により脱出することが可能であるが、トリフン類のヨコ糸の強い粘着力と「切れる構造」がガを捕食するのに特化しているとされている。ただトリフン類のヨコ糸の粘着力は高湿度下でのみ機能し、湿度の低下とともに粘着力が著しく低下することが実験的に証明されている。夏の乾燥した日は夜露の降りる深夜になるまで網を張らないという。因みに網を張るのは雌だけで、雄はどれも似たような黄褐色で毛の多い、雌とは似ても似つかない姿である。

里山の荒廃、水辺環境の破壊などの環境改変、夏季の高温と乾燥やゲリラ豪雨などの気候変動…トリフン類の置

かれる状況は今後より厳しくなることが予想されるが、これからもひと夏の思い出としてトリフンたちの「ごめんなさいポーズ」でほっこりしたいものだ。でもトリフンたち、君たちは何も悪くないんだよ。(平松毅久)

注) トリノフンダマシ属4種(トリフン、オオトリ、シロオビ、アカイロ)は埼玉県 RDB 種である。



シロオビトリノフンダマシ♀: 2025年7月川越市にて
アカイロトリノフンダマシ♀: クモ界きっての美麗種



オオトリノフンダマシ♀: 「ごめんなさいポーズ」の♀
オオトリノフンダマシ♂: ♀の1/5の大きさ(ノミの夫婦)

【社会環境部会コラム】社会と環境について思うこと (36) 環境対話カフェから竹炭作りへ

こんにちは！社会環境部会活動に参加している高澤日美子です。

このコラム欄で、2022年夏から始まった私の地元環境活動を振り返ってみようと思います。

まず、霞ヶ関北・角栄商店街で小川夕子さんと出会い、共にかわごえ環境ネットの会員になり、2023年2月開催のかわごえ環境フォーラムでのグループワークにファシリテーターとして参加したのが最初でした。若者たちとの対話を主軸にしたもので、広い年齢層の方たちの考えを聞くことができ、私の“社会活動”の萌芽です。

『環境対話カフェ』

2023年4月。それまで自分でできる範囲で環境への負荷が少ない行いを自宅でやっていたのが、少し視野が広がり、超地元で『環境対話カフェ』を年4回、皆と一緒に始めることに。地元愛の発芽です。

2024年度は『環境対話カフェ』2年目で3回実施でしたが、その合間、9月に実施された川越市主催『川越みらい

会議 2024』に応募し参加するという、私にしてはかなり大きな一歩がありました。そんな経験を織り交ぜての対話カフェ実施で、栗原造園の栗原薫さんに講話とバイオネスト作成のワークショップをしてもらうことになり、栗原さんの活動に触れることとなります。

8月、栗原さんが実行委員の『私たちの雨水フォーラム in 川越』(かわごえ環境ネット後援)で雨→土→雨という水の循環を再認識することとなり、続けて11月の『雨と緑を楽しむグリーンインフラ講座』(かわごえ環境ネット主催)で、より一層具体的な雨水利用の「雨活」を理解することができました。

折しもその年の夏に川越でも100mm/hのゲリラ豪雨が1時間降り続き、全国ニュースでも川越の市中冠水が報道されたほど。わが家でも軒下に水がどんどん溜まってきて恐ろしくなり、ずぶ濡れの中1時間近くバケツで掬って庭へ放っていました。気候変動により今後も発生するだろうゲリラ豪雨による浸水をどうしたらいいのか。栗原さんを

通して参加したこれら一連の講話により、雨水を受け取る土に目を向けるようになりました。

うちの庭は粘土質で水はけが悪いのです、と栗原さんに相談してみたところ、水はけをよくする方法の一つとして竹炭を利用するといいいですよ、とお話いただき、千葉県いすみ市で活動しているNPO法人いすみ竹炭研究会の活動を紹介していただきました。

あの豪雨の恐怖が私を後押しし、社会環境部会代表の増田知久さんにも手伝ってもらい、私のへなちよこ竹炭作りが始まることになりました。

この続きは機会があればまたいつか！
(高澤日美子)



2025年3月 田んぼで初めての竹炭作り

【自然環境部会コラム】自然を訪ねて (24) 蘇えれーいとしのコナラ

自然環境部会が川越の雑木林と関わり始めて25年になります。雑木林ではほとんどの樹木がコナラです。逆に雑木林以外でコナラを見ることはほとんどありません。学校、寺社、個人の庭などで植えられることはまずありません。コナラは川越あたりでは江戸時代に人為的に農用林として植えられ、300年にわたり落ち葉堆肥農業を支えてきました。それが今に続いているのです。

「(仮称)川越市森林公園」計画地(以後、川森)は40haあり、元は農用林ですので当然コナラが優占種です。第7回かわごえ環境フォーラム「かわごえ環境活動報告集」(2009年)にその当時の樹木毎木調査の報告があります。それによれば「第2武蔵野ふれあいの森」周辺と民地の一部、合わせて4haほどで1,000本近くのコナラがカウントされています。この計画地全体では5,000本は超えていたと思われま。

そのコナラが今や危機的な状況にあります。それは言わずと知れたナラ枯れです。カシノナガキクイムシという小さな昆

虫がひと夏で大きなコナラを枯らしてしまうのです。

それも樹齢が80年を超える大木が多くやられています。ここ数年で危険木として公園整備課が伐採した木は200本を越えます。それでも次から次へと危険木が控えています。

大きなコナラが伐採されるとそこには林冠ギャップができます。この空いた場所にコナラが再生するかというとそうはいかないのです。すぐに旺盛な外来植物、アカメガシワ、タラノキなどに覆われます。これらはパイオニアプラント(先駆種)と呼ばれ代表的な陽樹です。相対照度では100%近い日当たりです。林内ではコナラどんぐりから出た幼芽をよく見ますが、これは育つことなく3年くらいで枯れてしまい、自然更新は困難です。林内は相対照度は40%以下で、コナラの幼樹が育つには日照が足りないのです。さらに薄暗いところでも育つのがシラカシ、ヒサカキなどの常緑樹でこれらは陰樹と呼ばれます。

では、コナラを再生するにはどうするか。コナラは陽樹と陰樹の中間樹種と言

われ、相対照度は60%以上です。現在、「ふるさとの緑の景観地」で自然環境部会のメンバーがコナラの再生にチャレンジしています。鬱蒼としていた林を切り開き、日当たりをよくして、ドンぐリから育てたコナラの実生を植樹、5年目で3mほどに成長しました。川森でもこれから取り組みが始まります。
(賀登環)

※相対照度：主に林業で使われる「林内の明るさ」を示す指標で、裸地における全天の照度に対する林内の照度の割合(%)



2012年ごろの新緑のコナラ林



コナラの幼芽



2023年ナラ枯れ木



再生したコナラ

【社会環境部会コラム】社会と環境について思うこと (37) 温暖化、希望はなくても倫理はある

地球温暖化を1.5℃以内に抑えるという目標達成が難しくなり、温暖化自体を否定したり、「無理ならあきらめよう」と対策を放棄する人も出てきました。専門家たちは「少しでも気温上昇を抑えるために温暖化対策は必要です」と呼びかけていますが、多くの人たちは聞く耳をもちません。

正直に言うと私はペシミストなので、「1.5℃突破」という現状に絶望しています。今後百年の間に人類が辿る道には地獄が待っていると思っています。気候や生態系の安定が失われる、大規模な災害や飢餓が起り、限られた安全や富をめぐる人々が奪い合いを繰り返す、大量の移民・難民が生じ、それがいっそうの摩擦や紛争を引き起こす、等々。専門家たちは「このままだとそうなる可能性があります」と、穏やかに警告を発していますが、私はペシミストなので、これはもうほとんど確定だと思っています。

もしかしたら何かがうまくいって手に負えない温暖化もぎりぎりのところで回

避できるのではないかと、などという夢のような希望をもたずに最近つらつら考えて再確認したことがあります。環境問題の核心は、温暖化を防ぐためにどうするかという技術ではなく、むしろ私たちの生き方、暮らし方をめぐる倫理に関わることです。

技術的な問題は、はっきり定まったある目標を達成するためにはどうしたらよいのか、という点に関わります。しかし自然環境に関して今私たちが問われているのは、そもそもどのような暮らし方、生き方が善いのか、ということでしょう。動植物や微生物を犠牲にしても私は快適に長生きしたい、コンクリートやアスファルトで地面を覆い空調のきいた部屋で環境から切り離された人工空間の中で私たちは豊かに暮らしたい、何億年もかけて蓄積されてきた地球資源を今の世代の便利な暮らしのために使い果たしたい。このように私と私たちの今の欲望最優先で万事を決する生き方は善いのか、むしろ悪ではないのか。倫理は、一定の目的のための手段で

はなく、無条件に尊重される価値に関わります。「人類が減びないために」「孫の世代も豊かに暮らしていけるために」といった、何かの「ために」ではない。また将来に希望や明るい見通しがあるときにだけ行われることでもありません。1.5℃を達成できるという希望が失われても、それどころか地獄の中でさえも、私のこの生き方は善いのか、という問いはなくなりません。自然環境の中で草木や動物や虫たちとどう付き合っていくのが善いのか、という問いは、今後ますます切迫感を増してくるでしょう。

かわごえ環境ネットで私は、生き方という点で尊敬できる人たちと知り合えました。自然を尊重して暮らしたいと抽象的に思っていた自分に足りなかったことにもいろいろと気づかされています。地に足のついた地元の環境活動をもっと大事にしたいと思っています。

(高澤裕考)

【自然環境部会コラム】自然を訪ねて (25) ウバタマムシに思うこと

タマムシ(ヤマトタマムシ) (a) は色鮮やかで金属光沢のある外骨格を持つ虫です。

同じタマムシ科に属するウバタマムシという虫がありますが、タマムシと違って茶紫色のわずかにメタリックな感じの目立たない色合いをしています。大きさはタマムシと同じか少し小さいサイズで、埼玉県では準絶滅危惧種となっていてあまり見ることのない虫です。

私がこの虫の名前を知ったのは十代のころ、カミキリムシ専門の虫屋の叔父に教えてもらいました。当時、クロカナブンとウバタマムシを見つけて割と珍しいと言われたことを思い出します。しばらくしてまたウバタマという言葉に出会うことになります。「うばたまの」という万葉集などの歌の黒、暗がりなどの枕詞として受験勉強中に一所懸命暗記しました。ウバタマという言葉調べてみると、植物のアヤメ科のヒオウギの実の呼び名でした。

それから50年近く経ち、(仮称)川越市森林公園計画地の昆虫標本をかわごえ環境ネットへ寄附していただくこととなり、そ

の台帳を記録しているとウバタマムシがないことに気づき、採集者の方にウバタマムシはいないのですかと問うと、もう少し時間をかければ採集できると思うとのことでした。ウバタマムシはマツの木をよりどころとして生きている虫なので“松枯れ”が起きたときにマツノザイセンチュウ、マツノマダラカミキリに対する薬剤空中散布等で相当の影響を受けたと思っただけで、松の木もウバタマムシもしっかりと生きているようです。今年の夏の(仮称)川越市森林公園計画地で行われた虫の観察会で、講師の先生が前日に捕えたウバタマムシの成虫がプラスチックの容器の中でせわしく動き回るのを見てなぜかうれしい気分になりました。

8月の末にさきたま古墳公園に孫の埴輪づくり体験に付き合わされ、私はやることもないので園内を散歩していると、ひっくり返ったウバタマムシを見つけました。手に取ってみると腹側はきれいなメタリックなのに、背側は半分以上白いものに覆われて明らかにボージェリア菌に侵されている状態でわずかに足が動いていまし

た。そのままビニールの袋に入れ持ち帰り保存しようとしたのですが、2週間後にはボージェリア菌に食い尽くされてしまいました。(b) (松永裕一)



(a) タマムシ

(b) 食われたウバタマムシ



ウバタマムシ

1-3 社会環境部会を中心とした活動

【報告】環境対話カフェ 2025 ①「自治会でできる環境活動」(6月12日)

開催趣旨

6月12日(木) 13:30-15:00に霞ヶ関北自治会館において、環境対話カフェ「自治会でできる環境活動」を実施しました。参加者は16名でした。

本イベントは地域環境対話を軸としており、今回はクロストークの形式での実施となり、自治体での環境活動を幅広く展開している新宿町五丁目自治会長である荒木浩子さんと、昨年までかわごえ環境ネットと共催で環境対話カフェを実施していただいた霞ヶ関北自治会環境部長の吉田尚平さんとの対談でした。

実施結果

当日は吉田さんから荒木さんへの質問を軸に進んでいきました。双方の自治会の歴史、荒木さんが自治会長になった経緯という話から、プロジェクトの動かし方、維持の仕方、自治会における環境活動とは、という話につながっていきました。そのプロジェクトの1つとして、自治会長1人からスタートしたごみ拾い、コミュニティガーデン実施の紹介がありました。ごみ拾いはきれいな町を作るだけでなく、コミュニケーションの場になったり、犯罪の抑止力にもなるというお話があったり、コミュニティガーデン実施の背景には近くに住んでいる方の心を和ませたいという思いもあったという話もしてくださいました。「環境」とはとても幅広く、私たちを取り巻くすべてのものだということを感じるお2人の対談でした。

参加者からの質疑応答の時間では、新しいことを実施する際に反対意見は出なかったのか、その対応はどうしたのか?という質問や、世代間での交流をどのように深めていったらよいか?という、環境活動そのものではなく、周りの人たちとどのように意思疎通を図っていくか?という質問があがりました。長年自治会長をされている荒木さんの答えは「とにかく話を聞く」「対話する」でした。1人の方と3時間も話し合ったこともあり、その後、自治会のある活動に反対意見を持っていたその方が、一番の協力者になってくれたという実例を話してくださいました。

参加者の方からは、実践の具体的な話が聞けてよかった、環境を切り口にした自治会論がおもしろかった、環境対話

カフェを継続して続けてほしい、など、うれしい感想をいただきました。

(小川夕子)



クロストークの様子



地図で自治会の場所を説明する荒木さん

【報告】雨と緑を楽しむグリーンインフラ PART 2 (11月22日)

開催概要

日時：11月22日(土) 14:00-16:00

実施場所：川越市 有限会社栗原造園

参加者：9名 スタッフ：4名

講師：栗原薫氏(グリーンインフラ市民学会)

開催報告

土曜午後の暖かな秋の日差しの中、2024年に設立されたグリーンインフラ市民学会の栗原薫さんの話を聞く会を催しました。栗原さんには昨年霞ヶ関北でバイオネストのお話とワークショップをしていただき、環境対話カフェには2年続けてご協力いただきました。

今回の会場は造園内にある森の中のコテージのような建物。かわごえ環境ネット会員も含め13名が座って話を聞けるちょうどいい広さで、落ち着いて栗原さんの今までの活動内容や現在取り組んでいることを聞くことができ、これから先も続く自然へのまなざしを感じた集いでした。

「グリーンインフラ」。自然のもつ力をまちづくりに活かして安全で豊かな暮らしを未来につなぐ取り組み、という説明により、当たり前のようにただそこにあると思っていた山や木・花や草といった緑や大地は、電気、ガス、水道、通信網などと同じく社会の基盤を構成するために必須のものであるという概念なのだと言われながら気付かされました。

「庭は個人でできるグリーンインフラ」。話の中で出た栗原さんの言葉です。この言葉から、雨庭を作る、雨活をするといった、私たちも楽しんで取り組めることがその実践なのだということをまた今日も教えてもらった気がします。

そして特に興味した点として、一般的な浸透ますだけでなく、焼き杭を打ち込んで作るたて穴の装置も雨水が土に染み込むのには有効なのではないかという栗原さんのひらめきを検証するため現在実験中だということです。話が終わった後でみんなで庭に出て、バイオネストも作られてある敷地内に仕掛けた実験装置も見せていただくことができました。

少人数による開催ということで、自己紹介や経験、未来への思いなど参加者全員が発話する時間を設けることができ、対話カフェの趣旨にも沿うことがで

きました。ここからまた新たなつながりが生まれた会となったことも今回の収穫でした。今後の活動にも広がりをもてそうです。

最後にタイトルについて一言。ちょうど1年前に開催された『雨と緑を楽しむグリーンインフラ講座』で具体的に実践をしている方々の話を聞く機会があり、私たちにできることの導入口を示し

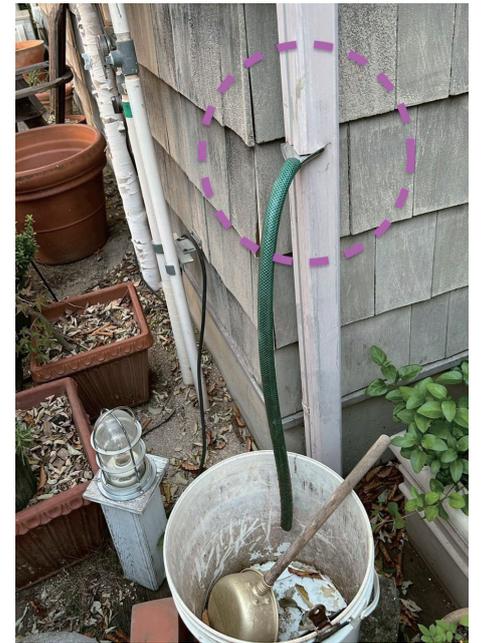
てもらったのですが、グリーンインフラという全体を包む概念の理解が追いついてなかった中、栗原さんにご相談をします。今回改めてお話を聞いたことで理解が少し深まり、個々の実践の先に豊かな世界を夢見ることができそうな、とてもいい回となったことをご報告いたします。(高澤日美子)



会場の様子



敷地内の見学



レインキャッチ



参加者の集合写真

【報告】環境対話カフェ「まちと環境の軽やかな動かし方を考えよう」（2月11日）

2月11日（水）11:00-13:00、さまざまな人とコトがつながっていく空間として構想されたゲストハウス「Chabudai（ちゃぶだい）」にて、「環境対話カフェーまちと環境の軽やかな動かし方を考えよう」を実施しました。参加者は20名、スタッフは3名でした。

実施結果

今回は「まちと環境の軽やかな動かし方を考えよう」というタイトルのもと、Chabudaiの企画・運営者である西村拓也さんをゲストに迎えて、かわごえ環境ネット増田知久副理事長とクロストークを実施しました。ファシリテーターは川越市、霞ヶ関北地域の場づくりmibunkaの吉田尚平さんをお願いしました。

まずはお二人の自己紹介から始まりました。増田副理事長から、学生時代から海外での経験、かわごえ環境ネットに入り、お米農家になるまでの経緯が話されました。西村さんからは学生時代、サラリーマン時代を経てフリーランスとなり、川越市主催のまちづくりキャンプから始まったゲストハウス「Chabudai」開業、その後もさまざまな事業、取り組みを行っていることが話されました。お二人の自己紹介の後にはファシリテーターの吉田さんが質問を投げかけた後、小休憩となりました。

休憩の後にはファシリテーター吉田さんがお二人に質問を投げかけてから始まるクロストークです。後半の大きなテーマは『公共』でした。民間から見た「公共」の可能性と限界、行政と関わる立場から見た「公共」というところから対話がなされました。また、何か活動を行う際にはコアで事務作業を行う人材が必要であり、「軽やかな活動」の裏側に必ず地味で面白味のない事務作業があり、その担い手を確保する難しさがあるということが、今回の対話から生まれた「軽やかさ」の着地点でした。事務作業の先にある「軽やかな活動」をイメージできると面白味のない事務作業もやろうという気になる、という西村さんの言葉が、一つの「軽やかさ」のヒントなのかもしれないと感じました。最後に会場からの質疑応答の時間を設け、終了となりました。

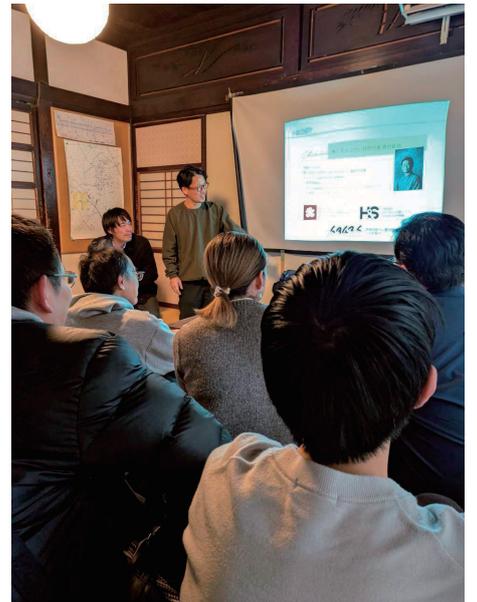
参加者からは、幅広い観点からの話

が聴けて勉強になった、などの感想をいただきました。また、参加者同士の交流がもっと欲しかったなと思いました、との意見もいただき、今後に生かしていきたいです。

今後の予定

2025年度の環境対話カフェはこれで最後となります。2026年度も継続して行い、さまざまな方々と「環境」について対話していく予定です。

（小川夕子）



会場の様子

1-4 自然環境部会を中心とした活動

2025 年 自然環境部会の活動報告

1. 武蔵野の雑木林 調査・保全活動

川越は市域の 50%が緑地とされています。しかし、その内訳はほとんどが水田・畑・河川領域で市民が気軽に入り込むことは難しいです。樹林地としての武蔵野の雑木林は、川越の原風景ともいえる自然遺産ですが、現在次々と失われています。市内に 1996 年には 510ha ありましたが、2021 年は 323ha になり、年平均 8ha の減少で計算上はあと 40 年ほどでゼロになります。どこで下げ止まりになるのでしょうか。

2019 年頃からナラ枯れが広がり始め、夏なのに林内では葉が茶色になったコナラを見るようになりました。ナラ枯れは急速に広範囲に広がっていき、市内の殆どの雑木林で確認されています。川越だけでなく、近隣の平地林でも同じような状況です。戦後ほとんど循環的な手入れをされないでここまできた平地林が、カシノナガキクイムシの格好のターゲットになったのです。今後、里山の風景がどうなるか危惧されます。

(1) 「(仮称)川越市森林公園」計画地

三芳・所沢・川越の畑作地で営まれている循環型農業（「武蔵野の落ち葉堆肥農法」）が 2023 年 7 月 6 日に「世界農業遺産」として認定されました。

川越の福原地区に「(仮称)川越市森林公園」計画地として 38ha ほどのまとまった雑木林（一部畑地）があります。平成 16 年に公園化の基本構想が出されましたが、まだ実現には至っていません。その内 10ha 余りの公有地化されたエリアを中心に「森のさんぽ道」が敷設され、多くの市民が散歩に訪れています。ここは 800 種以上もの動植物の生息が確認されている、川越でも第一級の生物多様性豊かなホットスポットです。

そして、ここは川越の循環型農業のメッカともいえる平地林で、今も農用林として活用されているエリアがあります。かわごえ環境ネット自然環境部会では、このすばらしい雑木林を広く市民に知っていただくため、また次世代に引き継ぐために自然観察会の開催や、調査・保全・再生活動を行っています。

「森を知り、森を楽しみ、森を育てる」を合言葉に毎月第 2 と第 4 の月曜日の午前中、20 名前後の会員がボランティアに参加しています。2025 年は 20 回活動し、延べ 303 名が参加しました。

「(仮称)川越市森林公園」計画地 調査・保全グループ

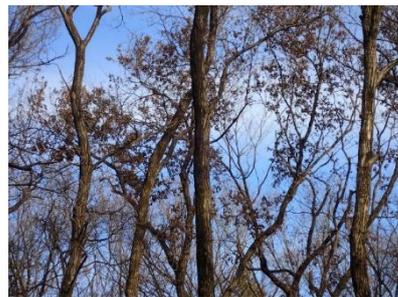
2025年活動実績				参加者
1月	13	話し合い・観察	来年度の計画	13
	27	保全活動	オドリコソウ域の手入れ	15
2月	10	保全活動	オドリコソウ域の手入れ	16
	24	保全活動	巣箱の点検(今年も中止)別地域手入れ	13
3月	10	保全活動	「武蔵野ふれあいの森」草刈り	16
	24	調査・観察	ウグイスカグラなど早春の花	13
4月	14	調査・観察	スミレ、樹木の新緑	17
	28	調査・観察	キンランなど希少種調査	17
5月	12	調査・観察	キンラン、クチナシグサ等調査	21
	26	調査・観察	希少種調査	12
6月	9	調査・観察	ノヤマトンボ、キノコなど	17
	23	保全活動	「武蔵野ふれあいの森」手入れ	14
7月	14	保全活動	林内調査 夏の昆虫、ヤマユリ等	10
	28	調査・観察	ヤマユリ、ノヤマトンボなど	猛暑中止
9月	8	調査・観察	林内一周生き物調査	14
	22	保全活動	「武蔵野ふれあいの森」手入れ	14
10月	13	保全活動	キンランの森手入れ	15
	27	調査・観察	草刈り、リンドウ、センブリ	16
11月	10	保全活動	林内の実生を移植 11本	17
	24	保全活動	希少種エリアの草刈り	17
12月	8	保全活動	希少種エリアの草刈り	16
合計				303

① 冬の雑木林

1月13日が年明け最初の活動日でした。この日は例年、1年間の予定を話し合います。その後、初冬の林内を巡ります。この時期の雑木林は静まり返っていて、樹々も葉を落とし梢が青空に映えています。林床は落ち葉で埋まっています。2年前から顕著になったナラ枯れ被害木が茶色の葉を残しています。また、この時期には例年、野鳥の巣箱の営巣確認と掃除をしていました。冬はシジュウカラ、エナガ、アオゲラなど野鳥の声がよく通ります。20数個掛けた巣箱を下ろして、営巣の有無を確認・掃除をして、また春の繁殖に備えます。

しかし、ナラ枯れ木が散在し、はしごをかけて木に登るのが危険な状況になり、この2年間巣箱には触れずじまいです。さらにここ数年、急速に野鳥が減っていて、どこにでもいたシジュウカラすら見ないこともあるのです。以前はカメラマンの姿をよく見ましたが、最近ほとんど出会いません。

明らかに林内が生物多様性を失い、劣化してきているのが分かります。ナラ枯れ木伐採により林冠ギャップが生じ、そこにアカメガシワ、セイタカアワダチソウが群落をなし、すっかり雑木林の風景が失われました。また、最近ササクサの繁茂が著しく、初夏から冬場まで延々と林床を塞いでいます。ササクサは本来関東以西の植物ですが、温暖化で北上してきたのでしょうか。



ナラ枯れ木



市、業者の伐採木確認



伐採される幹回り 2m以上のコナラ大木



伐採されたコナラ 径 90cm
大きな林冠ギャップが生じた



伐採木残渣は膨大な量・・・
何かの役に立たないものか

② 春の雑木林

3月末頃から林は一気に新緑に塗りかえられます。温暖化の影響で開花の進行が例年より1週間くらい早まっています。ヤマザクラはそこかしこにあり、林に明かりが灯ったようです。「第2武蔵野ふれあいの森」の近くにあったウワミズザクラの大木は勢いが弱まり、一部を残し、この秋に伐採されてしまいました。キンランは4月10日にはつぼみをつけ、例年より2週間近く速い進行でした。4月中旬からは希少種の調査で、キンラン、ギンラン、クチナシグサ、イチヤクソウなど分布調査を



ヤマザクラ

しています。樹木もこの時期、花を咲かせます。キンラン、ギンランは例年通りの開花数、クチナシグサも分布を変えながら健在です。懸念されるのがイチヤクシウでかなり株数が減少し、見られなくなったエリアもあります。



キンラン



ジュウニヒトエ



クチナシグサ



イチヤクソウ

③ 夏の雑木林

夏は生き物にとって成長、繁殖の大切な時期です。樹木はいつばいに葉を広げ、空を見上げてギャップはありません・・・これがここ数年ギャップが広がり、林床には様々な外来種がはびこるようになりました。2025年の夏は6月中旬から連日35度以上の猛暑が続き、8月に入っても9月になっても猛暑が続き、観測史上最も暑い夏でした。雨の少ない夏で雑木林はカラカラになりました。キノコもこの年は少な目でした。ヤマユリはよく開花しました。足元には昆虫、クモ、トカゲの類がうごめいています。昆虫、クモ、トカゲなど動物はあまり変化がなかったようです。

夏場の雑木林の手入れは旺盛な草との格闘です。新たに入り込んできたアカメガシワ、ササクサなどは本当に厄介です。今年からは草刈り機も出番が増えました。

7月5日には「キノコの観察会」、8月2日には「虫の観察会」が市民の方を対象に行われました。



クロハナムグリ



アカスジキンカメムシ



7/14 ゴマダラチョウ



7/14 ウラナミアカシジミ



7/14 ヤマユリ

④ 秋の雑木林

11月になると樹木の実には次第に色づいてきて、ムラサキシキブの紫、ガマズミの赤が色をそえます。これらの実は野鳥たちの貴重な食べ物になります。そして種を落とすので樹木の散布役をしていることになります。ウグイスカグラやガマズミは、この雑木林にかなりの本数がありますが、ほとんどが鳥達の仕事でしょう。手入れの際に簡単に切られてしまいがちですが、生き物の多様性のため残す手入れをしています。この頃にリンドウが林床を飾ります。薄紫色の釣鐘のような花を見ると、信州かどこかの高原にいるような気分です。身近にある美しきスポットです。

11月29日には「かわごえの森で遊ぼう」のイベントが行われ、大勢の親子でネイチャーゲームや森の工作を楽しみました。この森のすばらしさを市民に発信できたかなと思います。

自然環境部会のメンバーが毎月この地の生き物調査を続けて17年ほどになります。植物、動物（昆虫、クモ、爬虫類、哺乳類など）に関するデータは市のデータベース構築に登録して将来的に利活用できるようにまとめています。



センブリ 絶滅危惧種



リンドウ



9/22 シロオニタケ



10/13 ヤマブシタケ



11/29「森で遊ぼう」

⑤ 保全・再生活動

「(仮称)川越市森林公園」計画地の公有地の保全再生活動は20年目になります。当初はジャングル状態になった放棄地を手入れしていましたが、最近は生物多様性保全のため、植生を調査しながら手入れをしています。このような課程で新たに絶滅危惧種が見つかったり、在来のおドリコソウなど希少種の再生につながったりしています。

夏場は旺盛に育った林床の草刈りをしています。トイレのある「第2武蔵野ふれあいの森」は散歩する市民も多く人気のコースです。手刈り班と動力班で丁寧に草刈りをしています。

2020年からは、雑木林にとって悲劇的な現象が確認されました。ナラ枯れの被害がかなり及んでいたのです。全国的には様々な場所で発生していますが、ついにこの雑木林でも50本以上の被害木がでました。防護対策は難しく、被害木は伐倒するしかない状況です。公有地は行政が対応、民有地はボランティアが伐倒していますが、大変な労力と費用です。また、伐採する木の近くに希少種がある場合は出来るだけ救済します。移植すると育たない種もありますが、

今回はコナラ伐採予定のそばにあるサイハイランを別の場所に移植しました。根付いてくれることを願っています。

夏場はイネ科・外来種など強豪雑草が繁茂し、手刈りだけではとても無理なので、草刈り機を併用するようになりました。



6月～7月 第2 武蔵野ふれあいの森の手入れ

11月に入ると伐採木のあとにできた林冠ギャップに、新たに樹木を植える自然再生に取り掛かりました。植える樹種は園路に近い方に、ウメモドキ、ニシキギなど低木、その背後にはコナラ、アオハダ、ウワミズザクラなど高木になるものです。いずれもすでに林内で育った実生11本を移植しました。どれだけ根付くか分かりませんが、また来年も取り組む必要があるでしょう。樹木の成長は10年単位の年月がかかります。このエリアには樹木も40種くらいあり、将来高木層になるヤマザクラ、アオハダ、アカシデの幼樹は選択的に残しています。また、野鳥のために実のなる木、ウグイスカグラ、ガマズミ、ウメモドキなども残すようにしています。これらの樹木が循環してくれれば自然再生になります。



11/10 の植樹の様子
メンバーは20人弱
休憩時間はよもやま話に花が咲きました。



11月の手入れ活動

(報告 自然環境部会 賀登環)

2. 池辺公園の調査・保全活動

池辺公園は入間川流域、八瀬大橋の近くにあり、面積 1.3ha の小さな雑木林です。その昔、くぬぎ山がダイオキシン問題で全国的にニュースになっていた頃、その産業廃棄物が一部八瀬大橋河畔に運びこまれていたという情報もありました。今でも一部ごみ山が残っています。

このような背景の中で、平成 20 年に川越市により公園化されました。埼玉県生態系保護協会により、平成 19 年の基本調査でキツネノカミソリ、ハグロソウなどの絶滅危惧種があることが分かり、開園当初からこれらを保護育成するために自然環境部会が協力することになり、今日に至っています。

また、造園業者の方が草刈り作業時にアズマイチゲの生息を発見され、川越ではこれまで確認がなく珍しい種であったため、併せて保護することになりました。そのアズマイチゲは気難しく、なかなか花を付けませんでした。この 10 年間に多い時で 30 花ほどでしたが、2021 年の春にはナント、一気に 300 以上の開花でした。これまで他市の生息地の調査などして開花の少ない原因を探ってきましたが、分からずじまいでした。なぜ、ここでこのように多く開花したのか、例えば十分に葉が広がり栄養を蓄え、開花期が巡ってきたとも考えられます。次年度にどうなるか、気になるところでしたが、残念ながら 2022 年の開花数は寂しい限りでした。しかし、翌 2023 年は多くの開花がありました。2024、2025 年は少なかったです。

この林はずっと昔は入間川の氾濫があったと思われます。今でも水を好む植生が見られ、エノキ、イボタノキなどが多くあります。福原地区の乾燥気味の雑木林には見られない植生です。また、ニセアカシア（ハリエンジュ）が道路沿いに多いのも特徴です。5 月下旬からの開花期は、いい香りが漂います。

自然環境部会ではこれまで毎月第 2 火曜日を定例の活動日とし、10 人前後で調査保全活動を続けてきましたが、2025 年からは偶数月の活動にしました。植物データは 200 種ほどです。他では見られない希少種もあり大切にしたい場所です。池辺公園周辺はモトクロスやサバイバルゲーム場、サッカーコートなどに利用されており、採石場へのダンプの出入りも多くかなり埃っぽく、荒れた雰囲気です。さらに一時は不法土砂堆積もありました。このような中で、池辺公園はオアシスのような場所です。最近では散策に訪れる方も多くなりました。

2022 年 6 月にひょっこりと写真の植物「クララ」が斜面に育っていました。川越では、ほぼ見なくなったもので、オオルリシジミの食草です。新しいレッドデータブックでは準絶滅危惧（NT）に指定されました。大切に見守っていきたいと思います。また、数年ぶりにオニノヤガラが出ていました。絶滅危惧Ⅱ類（VU）で川越では最高ランクになります。菌従属栄養のランなので数年おきの出現になります。



保全活動の様子



5/30 マメ科植物 クララ



6/10 オニノヤガラ

池辺公園の希少種



アズマイチゲなど希少種の経年開花数

	2019年	2020	2021	2022	2023	2024	2025
アズマイチゲ	10	30	300	10	272	20	51
キツネノカミソリ		302	468	332	331	374	470
ウバユリ	44	32	78	84	未確認	23	17



アズマイチゲ



キツネノカミソリ



ウバユリ



活動メンバー 後ろの山が
刈り取ったササ



駐車場があるので
不法投棄ゴミは多い

(報告 自然環境部会 賀登環)

3. 観察会・イベントなどの報告

(1) 「かわごえの植物をたずねて」

環境政策課主催・環境ネット協力 日時：3月22日（土）9：30～正午

参加者 15名 講師：牧野彰吾氏

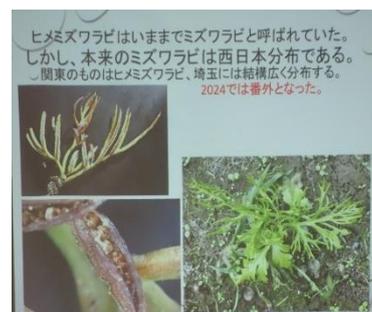
初めに講座「埼玉県レッドデータ 2024 の総括」が 30 分ほどあり、やはり絶滅危惧種は着実に増えています。野生絶滅から絶滅危惧 I a 類（CR）に復帰したムジナモの例などもあります。

維管束植物について

2011 年版では 764 種でしたが、2024 年版では 56 種が番外となり、新たに 118 種が追加になり、826 種になりました。埼玉県の維管束植物全体の 1/3 にあたります。

レッドデータ2024の総括

RDB2024	維管束植物	蕨類	藻類	地衣類	菌類	合計
絶滅	48	3	1			52
野生絶滅	2					2
絶滅危惧a類	167	50	26	17		260
絶滅危惧b類	213					213
絶滅危惧c類	210	55	3	23	14	305
準絶滅危惧	143	9	3	29	21	205
情報不足	43	12	2		19	76
合計	826	129	35	69	54	1113



次に、春の兆しを感じられるようになった「(仮称)川越市森林公園」計画地での観察会です。花の咲いている植物探しがテーマです。花盛りなのがタチツボスミレで、他にもヒメスミレも散見しました。シュンランは立派な株に 20 個以上の花を付けているのもあって、皆さんビックリです。

最後は部屋に戻り環境政策課から、今年度の「かわごえ生き物調査」についての報告がありました。



ヒメスミレが見えます



花のリストを確認



シュンランの大きな株

(2) 「キノコの観察会」

日時：2025年7月5日（土）9：30～12：00

講師：福島隆一氏（埼玉きのこ研究会会長）、稗島英憲氏

場所：「(仮称)川越市森林公園」計画地

参加者：22名、スタッフ7名

「キノコの観察会」は2008年9月21日に第1回が始まり、今年で18回目になります。2010年からは6、7月の梅雨期に開催するようになりました。その梅雨期がこの数年で様変わりし、雨らしい雨が降らなくなりました。今年は6月10日に梅雨入りしましたが、30℃越えの日が続き、真夏日を更新しています。雑木林はカラカラで、水分の欲しいキノコは大変です。さらに近年、ナラ枯れで林内が劣化してきています。

当日の参加者は22名、その内お子さんは7名。キノコ博士のように詳しいお子さんもいました。初め

に室内でキノコの概略のお話の後、林内に向かいます。園路にニョキッと出ていたのはツルタケ、下草をかき分けてチチタケと皆さんで必死に探します。

ひとしきり、森の中でキノコ探しをして室内に持ち帰り鑑定です。思いのほか多く集まり 38 種ほどでした。半分は腐生菌と呼ばれる木に付くキノコでした。地面から出る菌根菌、樹木に出る腐生菌の区別やキノコの働きなど実物を前にキノコについて理解を深めました。菌類は生態系において重要な役目をしています。樹木と栄養交換をし、森を育て、朽ち木を自然に還す掃除屋さんでもあります。



このキノコ、ぼくが見つけたよ



このキノコ、何ですか？



今日見つけたキノコ

(3) 「虫の観察会」

日時：2025年8月2日(土)9:30~12:00

場所：「(仮称)川越市森林公園」計画地

講師：佐々木英世氏(埼玉昆虫談話会)

この観察会は環境政策課との共催です。まず初めに山崎課長が「この雑木林で生き物に触れることで自然に親しんでほしい、生き物調査にもご協力を」と挨拶。続いて佐々木講師から“虫の捕まえ方や昆虫採集の道具の話”などがあって、フィールドに出発。実は今回の参加者はご家族一組です。他の参加予定の方は体調不良などでキャンセルになりました。

林の中に入ると夏草が鬱蒼と覆っています。カマキリがいましたが、まだこどもです。バッタの仲間はこれから大きくなります。アカアシオオアオカミキリの死体が園路にありましたが、これは準絶滅危惧(NT)です。標本に持ち帰ります。

さすがに盛夏でセミの鳴き声が響きます。アブラゼミ、ヒグラシなどが樹木にとまっています。樹液の出るコナラにはサトキマダラヒカゲ、シロテンハナムグリ、カブトなどが群がっています。小さなお子さんはカナヘビを捕まえてうれしそうでした。この日、観察した種は甲虫、カメムシ、チョウ、バッタ、トンボ、ハチ その他クモ類、トカゲの類などでした。



(4) 田んぼの生き物調査 6月28日(土)

かわごえ環境ネットと「かわごえ里山イニシアチブ」との共催。田んぼや用水路で魚、エビ、クモ、トンボなど見つけ。いきもの指標は昨年には及びませんでしたが、ナマズ、ホウネンエビと在来の貴重な仲間も確認できました。



(5) 小畔川魚とり遊び

共催：自然環境部会、小畔川の自然を考える会

日時：2025年9月27日(土)9:30~12:00

実施場所：かほく運動公園向い側、小畔川親水ゾーン

参加者：26名 スタッフ：9名

6月中旬からの猛暑もお彼岸で一服です。その後は気温も30度を下回り、好天続きで当日は爽やかな風もあるイベント日和になりました。川の水位も平常通りでコンディションはこれまでで最高でした。小畔川は大河でも小川でもないほどほどの河川で、水量もほぼ年間一定で魚類も多く親しみやすい河川です。2018年からこのイベントを実施していますが、毎回すぐに定員オーバーになるほど人気です。

今回も小学校5年生までのお子さんが13名、親御さんが13名でした。ライフジャケットを着用して川に入り、岸辺のアシが生えているところでガサガサを始めます。小さな魚やエビが入り、網の中を覗き込んでいます。小一時間、手網で魚とりに挑戦、オイカワ、クチボソ、エビなどをゲット、カムルチー、ブルーギルまで入りました。川面にキラキラと魚が跳ねるのが見えますが、手網ではなかなか捕まりません。投網名人のスタッフがエイっと網を打つと、オイカワ、カマツカ、ゲンゴロウブナなどが入りました。まさに一網打尽です。この後、捕れた魚を大型水槽に入れ、おさかな教室です。川の生き物のつながり、ブルーギルの話など小さなお子さんも熱心に聞いていました。この後、再度川に入り自由遊びです。魚を捕ったり川流れをしたり、「ああ、楽しかった！」と小さな女の子があがってきました。捕れた魚は皆さんで持ち帰りです。親子ともどもニコニコしてお帰りでした。



いざ、川の中へ



何が捕れたかな？



おさかな教室



ブルーギル



カムルチー

(6) 水上公園生き物観察会

日時：2025年10月4日(土)9:30~12:00

参加者：22名、スタッフ8名

講師：佐々木英世氏（埼玉昆虫談話会）

環境政策課と自然環境部会の共催行事です。例年少な目の参加者ですが、今年は定員いっぱいの6家族で小さなお子さんも多く、活気のある観察会になりました。初めは周回道路を進みます。キマダラカメムシの死骸、ケヤキの木にはハチの巣、やがて草地に入るとヤマトシジミ、トンボ、バッタの仲間が見られました。土手を越えて河畔林に入るとオンブバッタ、コバネイナゴ、ハラオカメコオロギ・・・次々と子どもたちが網でゲットです。

最近顕著になった外来害虫のチュウゴクアミガサハゴロモも何匹か見つかりました。他にもジョロウグモ、ナガコガネグモ、カタツムリ、カナヘビなど全部で40種くらいは見つかったようです。自然に近い河畔林は生き物の数も種類も豊富です。



ケヤキの上にハチの巣が



チュウゴクアミ
ガサハゴロモ



これ何かなー



これが〇〇ですか？



河畔林に入りました

(7)「キタミソウ観察会」

日時：11月2日（日）9：00～12：00

場所：伊佐沼 天気：風もなく観察日和 参加者：14名（スタッフ含む）・かわごえ環境ネットへの参加申込者：5名 受付：菊地

・埼玉県生態系保護協会川越・坂戸・鶴ヶ島支部等の関係者：8名
講師：稗島英憲氏

開催報告

キタミソウ生息地は荒川西岸では川越市伊佐沼だけです。去年は見られなかったエリアで、今年キタミソウを見ることができました。今回の観察会をどのように知ったか？

1. エコツーリズム拠点で観察会のチラシを見て申し込んだ
2. 川越水上公園のイベントで知る
3. 自然環境部会代表のお誘いを受けて参加

以上ですが、各種のイベント案内が「広報川越」に掲載できないため、市民に対する広報の仕方に工夫が必要と感じました。（菊地三生）



伊佐沼のハス

2020年頃には華やかに咲いていたハスですが、その後急速に消失してしまいました。原因はなかなか分からず、市の方ではミシシippアカミミガメの影響を考え、排除作戦を展開しています。ハスを咲かそう会の方は、ネットで困った中でハスの再生を試みています。いずれ、また素晴らしいハスを見たいものです。



(報告 賀登環)

かわごえ環境ネット 無農薬 田んぼの生き物調査 2025年6月20日(金)

川越市の古谷地区で無農薬・無化学肥料で長年イネづくりをされている農家で調査させていただきました。

講師：牧野彰吾氏 参加者：11名

1. 植物 水色網掛けは水生植物 No.8 はキカシグサでした (by 牧野氏)

1	アオウキクサ
2	アイノコセイヨウタンポポ
3	アオカモジグサ
4	アオミドロ
5	アカメガシワ
6	アキノノゲシ
7	アシボン
8	アブノメ?キカシグサ
9	アメリカオニアザミ
10	アメリカタカサブロウ
11	アメリカフウロ
12	アレチニシキソウ
13	イヌガラシ
14	イヌタデ
15	イヌビエ
16	イヌムギ
17	イボクサ
18	ウラジロチチコグサ
19	ウリカワ
20	エノキグサ
21	エノコログサ
22	オオアレチノギク
23	オオイヌノフグリ
24	オオジシバリ
25	オオニシキソウ
26	オッタチカタバミ
27	オニドコロ
28	オニノゲシ
29	オヒシバ
30	オランダミミナグサ
31	ガガイモ
32	カヤツリグサ
33	カントウヨメナ

34	ギシギシ
35	キュウリグサ
36	クワクサ
37	ゴウシュウアリタソウ
38	コゴメガヤツリ
39	コスズメガヤ
40	コセンダングサ
41	コナギ
42	コニシキソウ
43	コバナキジムシロ
44	コバンソウ
45	コヒルガオ
46	コブナグサ
47	コマツヨイグサ
48	コムギ
49	ザクロソウ
50	シマスズメノヒエ
51	シャジクモ 2024VU
52	シロザ
53	シロツメグサ
54	スカシタゴボウ
55	スギナ
56	スズメノテッポウ
57	スベリヒユ
58	セイタカアワダチソウ
59	セイヨウタンポポ
60	タチイヌノフグリ
61	タチチチコグサ
62	チョウジタデ
63	ツユクサ
64	トキワハゼ
65	トキンソウ
66	ドクダミ
67	ナガバギシギシ

68	ナギナタガヤ
69	ナズナ
70	ニガナ
71	ニワゼキショウ
72	ヌスビトハギ
73	ネジバナ
74	ネズミムギ
75	ノボロギク
76	ノミノツヅリ
77	ハキダメギク
78	ハナイバナ
79	ハハコグサ
80	ハマスゲ
81	ハルジオン
82	ヒエ
83	ヒナキキョウソウ
84	ヒメイヌビエ
85	ヒメジョオン
86	ヒメムカシヨモギ
87	ヘビイチゴ
88	ヘラオオバコ
89	ホソムギ
90	マツバイ
91	マツモ
92	マメグンバイナズナ
93	ミゾカクシ (アゼムシロ)
94	ミゾコウジュ
95	ムラサキサギゴケ
96	メヒシバ
97	メマツヨイグサ
98	ヤブガラシ
99	ヤブタビラコ
100	ヤブヘビイチゴ
101	ユウゲシヨウ
102	ヨモギ





シャジクモ
藻類 シャジクモ科
絶滅危惧Ⅱ類(VU)



マツモ
藻類 マツモ科



マツバイ
カヤツリグサ科



ミゾカクシ
(アゼムシロ)
キキョウ科

2. 動物

両生類 (3種)	昆虫 (7種)
無尾目	チョウ目
1.ニホンアマガエル	1.モンキチョウ
2.トウキョウダルマガエル(埼玉RDB2018 NT1)	2.モンシロチョウ
3.ヌマガエル	3.ヤマトシジミ

クモ (6種)
クモ目
1.オスクロハエトリ
2.キクヅキコモリグモ
3.クサグモ(幼体)
4.コクサグモ(幼体)
5.トガリアシナガグモ
6.ヤサガタアシナガグモ

カメムシ目
4.ケシカタビロアメンボ属の1種
5.ヒメアメンボ

バッタ目
6.エンマコオロギ(幼虫)
7.ショウリョウバッタ(幼虫)



トウキョウダルマガエル



ヌマガエル



ケシカタビロアメンボの一種

動物の調査・写真は平松様が担ってくれました。



キクヅキコモリグモ+卵のう



オスクロハエトリ ♂ ♀



ヤサガタアシナガグモ

その2

同じ田んぼで、真夏の盛りに昆虫などの調査をしました。

田んぼの生き物調査 2025年8月20日(水)

講師：佐々木英世氏 参加者：8名

連日 36℃越えの猛暑の中、8名で田んぼの昆虫、クモなどの調査をしました。この7～8月にイネカメムシ防除のため、広域でドローンによる農薬散布が行われました。当南古谷農園で農薬散布は行われず、10年以上無農薬の実績があります。講師によれば気温が高いため、虫も隠れているのではないかと、ということで種類は26種で少なめでした。コガタノミズアブは他県ではRDに指定されているところもあり、希少種です。

1. 昆虫

チョウ目	ナミアゲハ
	イチモンジセセリ
	モンシロチョウ
トンボ目	アジアイトトンボ
	シオカラトンボ
	ギンヤンマ
バッタ目	オンブバッタ
	ウスイロササキリ
	コバネイナゴ
カメムシ目	ホソヘリカメムシ
	シラホシカメムシ
	ムラサキシラホシカメムシ
	ヒメナガカメムシ
	チビヒラタヒメナガカメムシ
	ヒメオオメナガカメムシ
	ウスモンミドリカスミカメムシ
	キマダラカメムシ
コウチュウ目	クロウリハムシ
	ヒメカメノコテントウ
	ヒゲブトゴミムシダマシ
	コルリアトキリゴミムシ
	クビナガムシ
	ヒメゲンゴロウ
その他	コガタノミズアブ
	ヌマガエル
	トウキョウダルマガエル

2. クモ

アシナガグモ科
1. アシナガグモ♂, ♀, 幼体
2. トガリアシナガグモ♀, 幼体
ウズグモ科
3. マネキグモ幼体
カニグモ科
4. ハナグモ幼体
コガネグモ科
5. ドヨウオニグモ♂, 幼体
6. ナガコガネグモ♀
ハエトリグモ科
7. オスクロハエトリ♀
ヒメグモ科
8. ヤホシヒメグモ幼体

南古谷農園 草刈りをひかえた空き地での採集



田んぼでの採集

無農薬田んぼならではの希少種



コガタノミズアブ

植物に目を向けると



ホソバヒメミソハギ (外来種)



キカシグサとオオフサモ？
オオフサモは特定外来種ですが、当主に聞くと抑草の効果があるとか。

(報告 賀登環)

2 生きもの調査—5年間のモニタリング

景観地は生きものが多く生息することが知られています。林の再生につれてどのように生きものが変化するかを調べるためにモニタリングは欠かせません。この5年間、植物、昆虫、野鳥を中心に年間を通して観察してきました。

この5年間で、植物は171種、昆虫は254種、野鳥は33種、クモは24種、キノコは17種が観察できました。この他に爬虫類は3種、両生類は1種のみでした。

このモニタリングで判った特徴的なことは、林で「落ち葉掃き」の後にギンランが出現したことです。昆虫のチョウは明るい林にのみ生息するミヤマセセリが見つかり、コナラの新芽で命をつなぐアカシジミ、ウラナミアカシジミが安定的に見られます。コウチュウは最も多くの種が出現し、その中でも伐採後にやってくるカミキリムシが多く見られました。



ギンラン

5年間の昆虫		
目名	科数	種数
コウチュウ	20	88
カメムシ	19	40
チョウ(蛾も含む)	15	61
ハチ	7	17
バッタ	7	19
ハエ	4	12
トンボ	2	8
ナナフシ	2	3
カマキリ	1	5
ゴキブリ	1	1
アミメカゲロウ	1	1
合計	78	254
ハサミムシ	1	1
ダンゴムシ	1	1



ノギリクワガタ



ヒメヒゲナガカミキリ



ヤマトタマムシ



アカスジカメムシ



アキアカネ



トラフシジミ

野鳥では生態系の頂点にいると言われるオオタカが姿を見せ、渡り鳥は夏にはキビタキ、冬にはルリビタキやモズなどが「落ち葉掃き」の後に姿を見せます。

林は野鳥のサンクチュアリとして、現在分布を広げているリュウキュウサンショウクイが見つかりました。

この5年間のモニタリングでは生きものについての概要を明らかにすることができました。雑木林の特有な種が棲息しているのが判明しました。

その変化を捉えることができず、今後の課題となります。



ヤエンオニグモ



リュウキュウサンショウクイ

3 「こどもヤマ守り活動」で林に息吹を

この景観地を蘇らせるための活動として、小学生を対象にした「こどもヤマ守り活動」を2024年からはじめました。市の広報、公民館での掲示、地元自治会での回覧などで募集した結果、6名の参加がありました。2年目は口コミで11名に広がりました。

活動内容は、こども達が体験的に楽しめることを基本として計画し、落ち葉掃き農家を支援するために「林の下草刈り」と「落ち葉掃き」、コナラ林を再生させるために「樹の間伐」と伐採木の活用で「木工」、「コナラの苗木の植林」を系統的行いました。

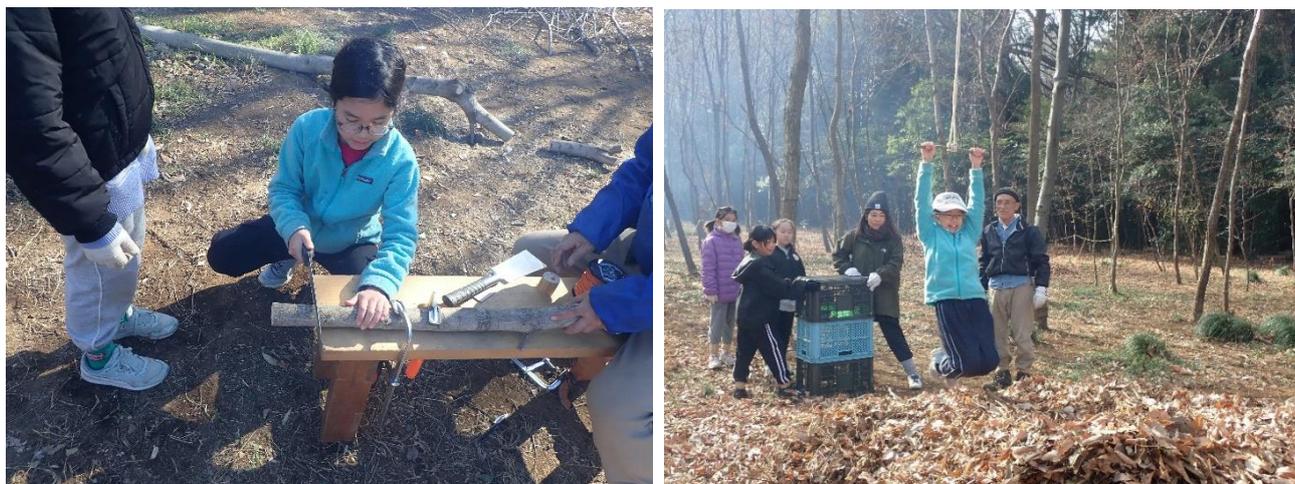


林を整備するために、林に落ちている枯れ木を集めて燃やし、その熱を利用してエコ調理を行いました。郷土食づくり、地元のサツマイモ焼き、地元野菜の豚汁やピザ、餅焼きなどをこども達で取り組み、楽しく美味しく食べました。燃やした後の灰は、家庭菜園で使いました。林での遊びは昆虫探し、栗拾い、落ち葉の山へのダイブと林の恵みを活用しました。

このような活動を継続して行うことによって林は活動しやすくなり、実生の生育や生



きものの生息場所の拡充になっていきます。また、枯れ葉を林内に積み上げて腐葉土化することにより、美味しい野菜作りに欠かせない農家の「落ち葉たい肥」の活用にもつながっています。



4 景観地の未来は

市内でふるさと緑の景観地は3カ所指定されていましたが、その面積は約40haになり、現在でも少ないですが、「落ち葉掃き農業」に使われている現役の雑木林もあります。また、数カ所の市有地も存在しており、市内における貴重な緑地となっています。

私たちが活動している林は、20年ほど前に一度畑として利用されて1年後に放置されて自然再生した栗を中心とする林となっていました。これを昔の雑木林にするために試行錯誤しながら取り組んでいます。「空き地にコナラを植林に再生する方法」と「ヌルデを間伐して林床のコナラの実生に陽を当てて林を復活させる方法」に取り組んでいます。

5年前に植林したコナラの苗は3mを超える高さに成長しています。しかし、まだ植樹したばかりの苗もあり、これからどのように成長するのか下草刈りをしながら見守ります。



この活動は長い期間を必要としており、次世代につなぐ試みとして「こどもヤマ守り活動」を企画し、こども達に体系的に体験的な活動を実践してもらいました。林の再生と「こどもヤマ守り活動」はまだ始まったばかりですので、これを継続して景観地の再生と落ち葉掃き農業復活を期待したいと思います。

山中和郎、宮澤宏次、過昌司

2. 学校等・市民・団体の環境活動

2-1 学校等の環境活動

川越市のサクラに襲い来る黒い影～クビアカツヤカミキリによる被害について～

川越女子高等学校生物部 小池ひかる

1. クビアカツヤカミキリ (*Aromia bungii*) とは

中国・朝鮮半島・台湾などが本来の分布である外来の生物で、2018年に特定外来生物に指定。体長は成虫で20～40mmほどで、全体的に光沢のある黒色に胸部が赤いのが特徴である。

幼虫はサクラやウメ、モモなどバラ科の樹木の中に入り込み、2～3年かけて木の内部を摂食しながら成長し、6月から8月にかけて成虫となる。幼虫が入り込んだ樹木からは大量のフラス（幼虫のフンと木くずが混ざったもの）が排出される。被害が進むと樹木は弱り、やがて枯死する。



図1 クビアカツヤカミキリ
(左オス、右メス)



図2 フラス
(図1,2 提供：環境科学国際センター)

2. 被害状況について

川越市内のクビアカツヤカミキリの被害状況について、川越市ホームページ掲載の情報（表1）より成虫については2023年に1地点、樹木への被害については2024年に6地点において初めて確認されている。また、2025年には12地点で樹木の被害を確認、5地点で成虫が確認されている。

川越女子高等学校生物部でも、2025年6月から7月にかけて川越市内の18地点でサクラの現地調査（表2）を行った。その結果、うち9地点で樹木の被害を確認、うち5地点で成虫を捕獲した。

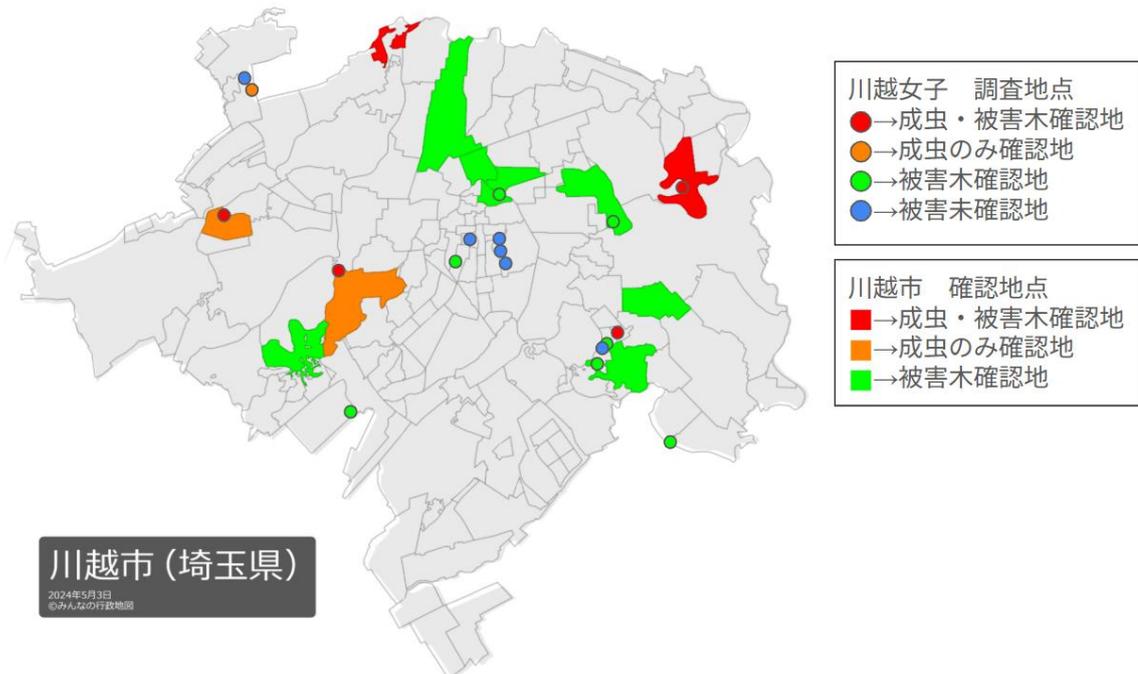


図3 2025年の川越市内被害状況
(川越女子高等学校生物部の現地調査および川越市ホームページ掲載の情報より作成)

表1 川越市内の被害状況（川越市ホームページ掲載の情報より作成）

番号	確認年度	確認箇所	確認日	確認状況
1	2023	仙波町1丁目	2023年6月21日	成虫1頭（被害木なし）
1	2024	伊勢原町3丁目地内	2024年7月30日	被害木3本（サクラ）
2		大字古市場地内	2024年8月2日	被害木2本（サクラ）
3		並木新町地内	2024年10月14日	被害木5本（サクラ）
4		藤木町地内	2024年10月24日	被害木1本（サクラ）
5		並木西町地内	2024年10月24日	被害木1本（サクラ）
6		南台3丁目地内	2024年11月13日	被害木1本（サクラ）
1		大字平塚新田地内	2025年7月2日	成虫2頭、被害木1本（サクラ）
			2025年7月16日	被害木1本（サクラ）
			2025年7月3日、4日、 8日、9日、11日、 14日、15日、22日	成虫18頭、被害木1本 （サクラ※7月2日と同木）
			2025年7月31日	成虫1頭、被害木1本 （サクラ※7月2日と同木）
			2025年10月15日	被害木43本（サクラ）
2		大字下老袋地内	2025年7月8日	成虫4頭、被害木10本（サクラ）
			2025年7月10日	成虫4頭、被害木10本 （サクラ※7月8日と同木）
			2025年7月16日	成虫2頭、被害木10本 （サクラ※7月8日と同木）
			2025年10月17日	被害木1本（サクラ）
3	2025	大字小中居地内	2025年7月9日	被害木1本（サクラ）
			2025年7月30日	被害木1本（サクラ）
			2025年10月14日	被害木2本（サクラ）
			2025年12月15日	被害木1本（サクラ）
4		伊勢原町地内	2025年7月14日	成虫1頭（被害木なし）
5		大字木野目地内	2025年7月14日	被害木1本（サクラ）
6		大字豊田本地内	2025年7月17日	成虫1頭（被害木なし）
7		大字山田地内	2025年7月25日	被害木3本（サクラ）
			2025年10月10日	被害木1本（サクラ）
8		伊勢原町3丁目地内	2025年7月27日	成虫1頭（令和6年7月30日以降の 新規被害木なし）
			2025年10月6日	被害木1本（サクラ）
9		氷川町地内	2025年8月21日	被害木1本（サクラ）
			2025年9月16日	被害木1本（サクラ）
			2025年10月15日	被害木2本（サクラ）
10		大字大袋地内	2025年8月22日	被害木1本（サクラ）
			2025年11月20日	被害木1本（サクラ）
11		宮元町地内	2025年9月16日	被害木1本（サクラ）
12		伊勢原町5丁目地内	2025年10月6日	被害木2本（サクラ）
13		宮下町地内	2025年10月15日	被害木2本（サクラ）
14		大字伊佐沼地内	2025年11月6日	被害木18本（サクラ）

表 2 川越女子高等学校生物部 2025 年現地調査結果

調査地点	住所	調査日	調査本数	被害本数	成虫捕獲数
1 川越女子高校前	六軒町1丁目	2025年6月14日	19	0	0
		2025年10月23日	19	1	0
2 連馨寺	連雀町	2025年6月14日	26	0	0
3 成田山川越別院	久保町	2025年6月14日	3	0	0
4 喜多院	小仙波町1丁目	2025年6月14日	54	0	0
5 中院	小仙波町5丁目	2025年6月14日	11	0	0
6 新河岸川（氷川神社裏）	宮下町2丁目・氷川町	2025年6月14日	25	0	0
		2025年7月26日	127	1	0
7 川越水上公園	池辺	2025年6月28日	325	30	5
		2025年6月29日	-	-	2
8 御伊勢塚公園	伊勢原町3丁目	2025年6月28日	180	7	5
9 並木新町公園	並木新町	2025年6月29日	6	5	2
10 並木西町公園	並木西町	2025年6月29日	12	2	0
11 藤木町第一公園	藤木町	2025年6月29日	3	0	0
12 藤木町第三公園	藤木町	2025年6月29日	10	1	0
13 新河岸川（古市場）	古市場	2025年6月22日	112	0	0
14 南台ふじみ公園	南台3丁目	2025年6月29日	11	1	0
15 伊佐沼公園	伊佐沼	2025年7月5日	69	4	0
16 川越運動公園	下老袋	2025年7月6日	16	7	1
		2025年7月19日	71	8	3(死骸)
17 下広谷健康ふれあいの森	下広谷	2025年7月6日	11	0	1
18 富士見六地藏公園	広谷新町	2025年7月6日	5	0	0

3. 数年後を見据えて

2025 年の被害状況より、川越市内の各地でクビアカツヤカミキリの成虫の発生が確認された。また、排出されたフラスだけでなく、樹木の表面にフラス排出孔や脱出孔（成虫となり樹木外部に出る際の孔）がみられる樹木も数多く確認できた。

2026 年にはサクラをはじめとするバラ科樹木へのクビアカツヤカミキリによる被害は急速に拡大し、さらに数年後には衰弱し、枯死することが予想される。川越市内のサクラを守るためには、早急に被害木の伐採や農薬散布といった対策を講じ、成虫が脱出しないようにする必要がある。また、行政が行うクビアカツヤカミキリの対策には限界があるため、市民の協力が欠かせない。川越市はホームページに情報を掲載するだけでなく、SNS の配信やポスターの掲示、チラシの配布などを行って、市民への周知を徹底し、被害の早期発見、成虫の駆除に努める必要がある。

4. 参考資料

- ・埼玉県環境科学国際センター

「サクラの外来害虫 “クビアカツヤカミキリ” 被害防止の手引 令和 6(2024)年 5 月 第 7 版」

https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/117809/kubiaka_tebiki9-4_2.pdf

- ・川越市ホームページ

「クビアカツヤカミキリにご注意ください。」

<https://www.city.kawagoe.saitama.jp/kurashi/s-kankyo/1002712/1002725/1013987.html>

こどもエコクラブ ワンダーなんだあくらぶ 活動報告

ワンダーなんだあくらぶ事務局代表 栗原 薫
レポート作成 青柳 遥



こどもたちみんなが持っている
センス オブ ワンダー！
自然に触れることで見つける



不思議なこと。感動すること。おもしろいこと。

こどもも大人もいっしょに
心と体を動かす体験をたくさんしてみよう

物知り博士から楽しく学んで

いきもの・地球を好きになろう！



活動地 川越市内

インセクトホテルは
虫たちが冬を越したり
繁殖する場所
なんだって！

みんなの好きな虫・きれいな虫
それぞれどんなものを食べているかな
きれいな虫がいなくなっちゃったらどうなる？



生物多様性をあらゆる
紙コップのピラミッド
一番下の紙コップを取ると・・・？

6月

虫と仲良くなって
インセクトホテルを作ろう

教えてくれた物知り博士
ひきちガーデンサービス
曳地トシさん 曳地ハルさん

参加者 43名



篠竹を切って



レンガを積んで



篠竹、穴を開けた木、藁、松ぼっくり、植木鉢、石を詰めて完成！



巨大迷路みたい
こんなに広い
トウモロコシ畑！

7月

矢部農園さんのお手伝い
トウモロコシの片付け



参加者 26名

トウモロコシは1つの苗にいくつか実ったうちの大きな1つだけを出荷用にするそう。残ったものを収穫したよ！



写真撮影できないデータ処理施設なども見学させてもらったよ！

8月

ワンダーなんだあくらぶ
川越市環境政策課

夏休み特別企画

『鳩山のJAXAに行こう！』



参加者 21名



セミが出て来た穴を探したよ！

この抜け殻は何のセミかな？



8月 栗原造園さんのお庭で虫さがし

教えてくれた物知り博士
環境ネット 横山さん

参加者 22名



地元の方にいただいたスイカで

スイカ割りをしたよ！

割ったスイカはフルーポンチに

yum



熱中症指数計でチェックしながら活動したよ！



ササグモ

ハラビロカマキリの卵のう

アブラゼミ

オンブバッタ



サトキマダラヒカゲ

ニホンカナヘビ

食事中的オオカマキリ



ツリークライミング&防災トイレ体験&豚汁作り

教えてくれた物知り博士
ツリークライミングジャパンのみなさん



登る前と後に山桜に触れながらご挨拶をしたよ！



2-2 市民・団体の環境活動

土壌菌解析から見る農の未来と地球温暖化抑制の可能性 ～環境にやさしい農業が地球を守る～

増田純一(発表者: NPO 法人かわごえ里山イニシアチブ)

高野文英(研究者: 日本薬科大学漢方薬学分野教授)

はじめに

2020年から日本薬科大学との共同研究により行っている田んぼの土壌菌解析により「土の中の微生物」という普段あまり意識しない世界から、農業の未来や土壌微生物と地球温暖化との関係が見えてきたのでその研究内容について「土壌菌解析から見る農の未来と地球温暖化抑制の可能性」と題して紹介するものです。

土の中で何が起きているのか

私たちが普段口にしてのお米は「土」がなければ育ちません。

また、土壌環境は腸内環境と同じ、土壌環境は地球環境につながると言われています。

「土壌そのものが持つ力をどう守り、未来へつなぐか」をテーマに、これまでかわごえ里山は環境にやさしい米づくりの実践活動を行ってきました。

最近では、田んぼはメタンガスを発生させるという理由で中干の期間を長くするといったことが行われています。本当にそうなのでしょうか？科学的根拠にもとづいて議論されているのでしょうか？

これらの課題から土の中で何が起きているのか、これまで見えなかった“田んぼが持つ見えない力”を科学で読み解き、“地球温暖化”と“土の中の微生物”との関係からその糸口を探ります。

研究の体制

この研究は、NPO 法人かわごえ里山と連携農家の小江戸南古谷農園や近隣農家の協力を得て、日本薬科大学の高野文英教授が 16S rRNA 遺伝子解析手法を用いて土壌菌の DNA 解析により研究を行っているものです。

調査した田んぼ

今回比較した田んぼは次の 2 地区です (2020 年は川越市福田の田んぼ)。

① 南古谷 (A 群)

- ・ 8 年間 無施肥・無農薬
- ・ 人工的なものを一切施さない循環型農業が特徴の土壌

② 北山田 (F 群)

- ・ 軽慣行農法
- ・ 最低限の施肥・除草剤のある田んぼ

極端に違う場所ではなく、「現実にある農地同士」を比べたのがポイントです。

何をどのように調べたのか

土の中の「土壌菌」を最新の 16S rRNA 遺伝子解析手法で

- ◇ どんな菌が
- ◇ どれくらい
- ◇ どんなバランスで存在しているか

土の中には、スプーン一杯で何十億もの菌がいます（図-1）。土の健康診断のようなもので、作物の栄養循環、・病気の抑制、・土壌の健全性、・温室効果ガスの発生抑制などに深く関わる土壌微生物を調べます。



図-1 スプーン一杯の菌
出典：FAO, 2021

分かったことは

- ① 南古谷（A群）：自然に近い土
 - ◇ 未知の菌がとても多い
 - ◇ 森林や湿地のような自然土壌に近い
 - ◇ ゆっくり分解 → 炭素を土にためやすい
 - ◇ 温室効果ガス（N₂O・メタン）が出にくい構造
- ② 北山田（F群）：農業向きの土
 - ◇ 肥料に反応する菌が多い
 - ◇ 分解が速く、作物が育ちやすい
 - ◇ 現代農業に適した土

どちらが良い・悪いではなく「性格がまったく違う」ことが特徴となっている。

南古谷の土の特徴

南古谷では、次のような特徴のある土壌菌が存在し、“自然度の高い土壌菌”が多数見つかります。

- ◇ Acidobacteria（森林土壌に多い微生物）
- ◇ Planctomycetota（湿地・自然土壌の指標）
- ◇ MBNT15（未培養菌。自然湿地の証拠）が非常に多い
- ◇ Chloroflexi（難分解物をゆっくり処理）
- ◇ Verrucomicrobiota（メタン酸化菌）

これらの土壌菌が意味するところでは、何年も人工的なものが施されていない循環型の農法を取り入れている結果、自然のバランスが保たれ、自然の生態系がそのまま残されたレリックソイル（生きた化石のような土）の様な特徴を示しています。

北山田の土の特徴

北山田の田んぼでは、次のような土壌菌が多く見られ、育ちやすい農業に適した土壌構造を持つことが分かりました。

- ◇ 肥料に反応する菌（Nitrospira など）が多い
- ◇ アンモニア → 亜硝酸 → 硝酸 という“硝化”が強い
- ◇ 肥料に反応する菌
- ◇ 植物残渣を早く分解する菌
- ◇ 窒素循環に関わる農耕地型の菌

これらの菌が意味するところは、作物を育てる力が強い、人の管理に素直に反応する、生産性の高い農業に適した土という特徴を持ちます。

一方、 N_2O が出やすい構造といった現代農業の課題（温室効果ガスの増加）が微生物からも見えますが、持続可能な「現実的農業モデル」でもあります。

興味深いことに、微生物の「数」や「種類の多さ」は 南古谷も北山田もほぼ同じでした。決定的な違いは土壌菌の「多様性の質」により「性格がまったく違う」ことが特徴となっています。

重要な発見

南古谷の田んぼの土壌菌の存在から温暖化ガスの発生を抑える働きを持つという重要な発見がありました。

- ① 炭素を土にためる力が強い（炭素固定）
 - ◇ ゆっくり分解する菌が多い → CO_2 が大気に戻りにくい
- ② 窒素を自然に循環させる（脱窒）
 - ◇ 自然湿地のような“穏やかな窒素循環”
- ③ 温室効果ガスが出にくい構造
 - ◇ N_2O （強力な温室効果ガス）が出にくい
- ④ メタンを食べる菌も存在
 - ◇ Verrucomicrobiota などのメタン酸化菌

このように人為的介入を最小限にした農法（生物多様性農法）は、①炭素を土に留めやすく、②窒素を自然に循環させ、③温室効果ガスが出にくい構造で、④メタンを食べる菌も存在し、地球温暖化を抑える方向に働く土となっていることが分かってきました。これはとても大きな発見で「土が地球を守っている」「温暖化抑止型の農地（図-2）」になり得る可能性が見えてきました。



図-2 温暖化抑止型田んぼのイメージ（ChatGPTにより作成）

この研究が示すこと

この研究から農業は環境破壊ではなく、未来の環境を支える重要な営みということが分かってきました。「やりすぎない。人間が手を入れすぎない」ことが大切だということを示唆しています。

- ◇ 土は“生きた生態系”で自然のままの土は、驚くほど豊かな生態系を持ち、
- ◇ 人が手を入れすぎると壊れる。でも、守れば自然が働く。
- ◇ 微生物の働きが、温暖化ガスの抑制に直結
- ◇ 農業は未来の環境を支える重要な営み

まとめ

- ◇ 土は生きている
- ◇ 微生物が環境を守っている
- ◇ 農業は未来を支える営み

農業とは、作物を育てるだけでなく 未来の環境を育てる営みであることが分かってきました。

そして

⇒土を守ることは、未来を守ること (図-3)
土を守ることは、いのちをまもること
土を守ることは、地球環境を守ること
につながることを土壌菌が教えてくれています。

おわりに

膨大なデータから多大な研究時間を費やし
この研究を行っている日本薬科大学 高野文英
教授に感謝申し上げます。

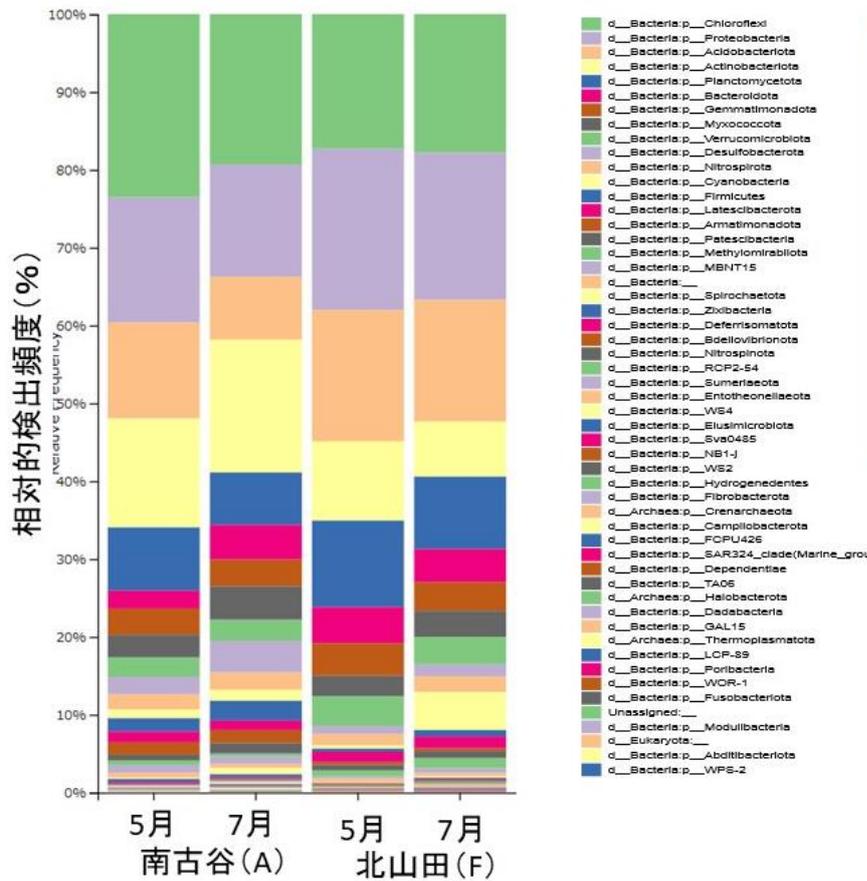
また、今後この研究を通じて、農業 ×
自然 × 科学 の新しい未来像が描けることを期待しています。



図-3 土を守ることは、未来を守ること (ChatGPT により作成)

参考：16S rRNA 遺伝子解析から得られた土壌菌解析結果（抜粋）

Level 2（門レベル）での解析



リンネ式階層分類
Taxon principal ranks
Level 1: 界 kingdom
Level 2: 門 phylum
Level 3: 綱 class
Level 4: 目 order
Level 5: 科 family
Level 6: 属 genus
Level 7: 種 species

Level 2 菌叢解析

Taxon (phylum)	南古谷		北山田	
	5月	7月	5月	7月
Actinobacteriota	16366	16075	11553	5391
MBNT15	1150	916	306	473
Gemmatimonadota	3930	3238	4749	2824
Proteobacteria	18791	13568	23468	14401
Planctomycetota	9499	6357	12583	7074
Chloroflexi	27474	18223	19581	13510
Acidobacteriota	14355	7619	19090	11862
Nitrospirota	2255	2078	1686	1558
Firmicutes	2023	2429	500	638
Verrucomicrobiota	2972	2565	4341	2702
Cyanobacteria	1298	1325	430	3691
Myxococcota	3372	4050	2956	2523
Bacteroidota	2674	4172	5237	3214
Latescibacterota	1638	1134	1476	1133
Methyloimrabilota	704	350	892	1004
Desulfobacterota	2580	3825	1143	1142
Campilobacterota	0	181	0	0
Spirochaetota	224	790	94	144
Entotheoneellaeota	0	0	121	257
Bacteria;	701	466	563	326
Patescibacteria	838	1259	784	672
Zixibacteria	475	370	102	189
RCP2-54	0	24	166	221
Fibrobacterota	102	81	39	0
Deferrisomatota	249	169	62	89
Nitrospinota	132	150	74	66

Taxon (phylum)	南古谷		北山田		補足
	5月	7月	5月	7月	
RCP2-54	0	24	166	221	
Fibrobacterota	102	81	39	0	
Deferrisomatota	249	169	62	89	
Nitrospinota	132	150	74	66	
Sva0485	120	96	19	81	
TA06	18	76	0	0	
Bdellovibrionota	78	69	220	103	
Dependentiae	0	0	84	10	
Crenarchaeota	69	67	56	12	
Sumeriaeaota	163	146	51	46	
WS4	150	215	0	0	
NB1-j	10	12	134	122	
Dadabacteria	41	23	0	5	
Hydrogenedentes	130	66	19	13	
Thermoplasmatota	40	0	11	0	Archaea
WS2	62	158	27	0	
Elusimicrobiota	50	97	113	84	
GAL15	38	0	15	13	
SAR324_clade(Marine group B)	11	18	41	38	
Halobacterota	26	60	0	0	Archaea
LCP-89	0	32	0	0	
FCPU426	28	35	0	79	
WOR-1	0	24	0	0	
Poribacteria	15	13	0	3	

Taxon (phylum)	南古谷		北山田	
	5月	7月	5月	7月
Fusobacteriota	0	0	10	0
Modulibacteria	0	8	0	0
Eukaryota;	0	6	0	0
Abditibacteriota	5	0	0	0
Unassigned;	4	2	3	0
WPS-2	0	0	0	2

ユニークな菌門
Entotheoneellaeotaのカイメン寄生細菌
抗がん剤候補物質産生
有害物質分解能？
Methyloimrabilotaのメタン酸化と窒素代謝を結合する特殊な代謝経路を持つため、地球化学や温室効果ガス研究で注目。
Armatimonadotaのメタン生成菌に供給される有機基質の前処理者として重要。湛水期に増加し、乾田期には減少する傾向が報告されている。
Dadabacteriaの炭素循環に関与。本来は深海・地下水・淡水堆積物などにいるとされる。有機物分解に関与し、発酵型代謝を行うと推定。メタン生成菌や硫酸還元菌と共存し、有機物分解の初期段階に関与。
Myxococcotaの湛水期よりも乾田期や表層土壌で優占。他の細菌を捕食することで、病原菌や競合菌の制御に寄与。抗菌性物質を産生し、微生物群集の安定化に関与。「捕食性細菌」であり、田んぼでは乾田期に微生物群集のバランスを保つ重要な役割を果たす。

レベル2（門レベル）でのA群（南古谷）とF群（北山田）のまとめ

群	主な菌の構成門	環境傾向	土壌の特徴
A群 (南古谷)	Acidobacteriota Chloroflexi, Firmicutes Planctomycetota Nitrospirota	湿潤・酸性・貧栄養	森林土壌・休耕地・有機物分解が進む層
F群 (北山田)	Proteobacteria Actinobacteriota Chloroflexi Gemmatimonadota	栄養豊富・中性～弱酸性・やや乾燥	根圏・耕作地・堆肥混合土

窒素循環に関わる細菌

機能分類	OTU TAXON(抜粋)	南古谷		北山田		傾向
		5月	7月	5月	7月	
NO ₂ ⁻ 酸化 (Nitrospira)	Nitrospira (Nitrospiraceae)	196	92	821	709	Fが圧倒的に高い (典型的硝化)
NH ₄ ⁺ 酸化 (AOB)	Nitrosomonadaceae; GOUTA6	213	86	207	0	A≈F (施肥の影響)
NH ₄ ⁺ 酸化 (AOB)	Nitrosomonadaceae; Ellin6067	0	0	2	4	Fのみ検出
NH ₄ ⁺ 酸化 (AOB)	Nitrospira	0	0	6	3	Fに特徴的
NH ₄ ⁺ 酸化 (AOA:古細菌)	Candidatus Nitrocosmicus	0	0	6	0	Fにのみ存在 (重要)
嫌気還元系 (自然系 N-cycle)	Thermodesulfovibrionia; uncultured	411	369	206	295	Aで多い
N-cycle 周辺 (有機物分解/ 補助)	Anaerolineae; Anaerolineaceae	高値	高値	低い	低い	Aが優勢

57 門の菌の解析から見えるもの温暖化防止の観点から

温暖化防止（温室効果ガス抑制）への寄与

田んぼ土壌は通常 → 嫌気状態でメタン生成菌（Methanogens）が優勢

ところが、今回のように

Nitrospirota

Planctomycetota

Verrucomicrobiota

Acidobacteriota

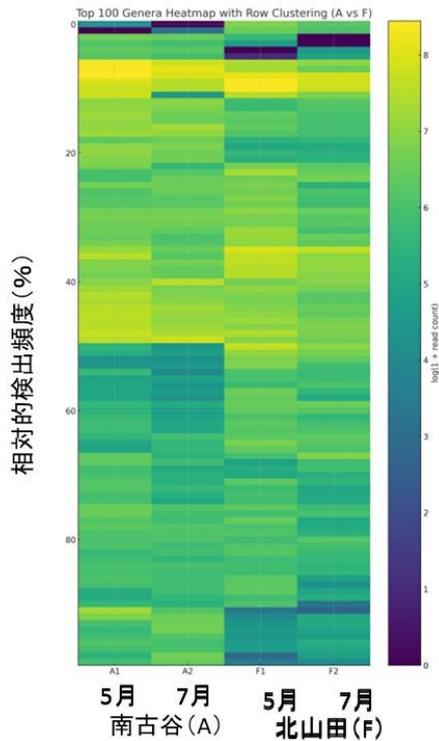
がバランスよく存在することは、メタン生成と酸化のバランスが取れた生態系を示す。

特に：

Verrucomicrobiota には「メタン酸化菌」が含まれます。

Planctomycetota の一部（例：*Anammox* 菌）は、アンモニウムを亜硝酸と反応させて **N₂ガス** に変換します（脱窒型窒素固定）。

つまりこの A 土壌（南古谷）は、メタンの発生を酸化菌が抑え、過剰な窒素をガス化して大気に戻す（無駄な肥料窒素流出を防ぐ）—という、「地球温暖化抑制型の自然田」的な代謝バランスを持つ可能性が高い。



Leve 6(属)解析ヒートマップ

土壌採取	南古谷	北山田
5月	486属	486属
7月	479属	471属

リンネ式階層分類	
Taxon principal ranks	
Level 1:	界 kingdom
Level 2:	門 phylum
Level 3:	綱 class
Level 4:	目 order
Level 5:	科 family
Level 6:	属 genus
Level 7:	種 species

1. A1/A2 と F1/F2 が完全に異なるパターンを形成

種レベルよりも属レベルのほうがノイズが少ないため、“農法の違いが微生物群集に刻まれている”^{***}ことがよりクリアに示されます。

2. A側のヒートパターンは“多様でムラが大きい”

→これは自然土壌(レリックソイル)の特徴。

3. F側は“施肥・除草剤・作物根圏”の影響を受けた属が帯状にまとまる

→ Burkholderiales (目)、Xanthobacteraceae (科)系、分解菌などがまとまる。

4. 行クラスタリングにより“A固有のクラスター”“F固有のクラスター”が浮き上がる

小江戸南古谷農園

～和のこころ、遊ぶ、真似ぶ、学ぶ、お米創り～

●活動目的

未来の子供たち、地球環境を後世に伝える。

●活動報告

一貫農業体験を通し田んぼから

つくる人、食べる人が出会いお互いを理解し支え合う関係性を築くことを大切にしました。

種蒔きから始まり、つくる人と食べる人へ想いを届ける取り組み。

2025年小江戸南古谷農園物語りを作ることが出来ました。

●今後の活動～川越100年後に続くために～

お互いが頼る頼れる関係性こそ、地域を守り未来につながると考えます。

100年後の川越の未来を見据えた上で、川越の1年後、5年後を考えることが出来れば
現在の子供たちが大人になり、未来の子供たちにまで物語りを語り継がれます。

伝承、継承しているのが日本の農家さんです。よろしく願いいたします。



2024年8月に新宿五丁目、新宿団地の一区画から始まった川越市初のコミュニティガーデン『あらだんガーデン』
 月1回程度の少ないお手入れでもきれいに保てるように、宿根草（しゅっこんそう...一度植えたら何年も花を咲かせる草花）を多く取り入れています。2025年も地域のみなさんと一緒にガーデンのお手入れ+ワークショップなど、全11回の活動をしました。小学生も参加してくれて、様々な年齢層の方々の交流の場にもなっています。2025年から『市民花だん』に指定されたため、春と秋に川越市から苗の支給がありました。ありがとうございます～！

川越初のコミュニティガーデン みんなの庭プロジェクト あらだんガーデン2025活動報告

レポート作成 青柳遥

MONDAY
第1回
4/21
 コミュニティガーデンコーディネーターの木村智子（きむらともこ）さんが参加してくださいました♪
 雑草防止と乾燥や温度変化から根を守るため、バーク堆肥を苗の周りに敷くマルチングをしました。



みなさんの紙コップアレンジメント！
 とっても素敵♡

FRIDAY
第3回
6/6
 病気やカビの発生源になることもあるため、花がら（咲き終わって、しおれたり枯れたりした花）を取り除きました。花がらを摘むと次の花が咲きやすくなります。この日は気温が上がったので作業は短めに。みなさんの体調を最優先にお手入れしていきます。



参加者の方がおすそわけくださったアナベルを手に満面の笑み！
 新宿五丁目自治会長の荒木さん



FRIDAY
第2回
5/16
植え替え



根にしっかり水を与えるために掘った穴に水を入れてから植え付けました。
 イスに座りながらゆっくり作業できました。✨

みんなが集い
 みんなで育てる
 みんなが楽しい
 みんなの庭の記録

毎回お手入れで
 摘んだお花 &
 おいしいお土産付き



FRIDAY
第4回
6/20

梅雨入りしたはずでしたが暑い日だったので、お手入れは最小限にして、室内で花の色ごとに3グループに分かれ、ネームプレートを書いてガーデンに立てました。みなさんの力作をガーデンの前を通る方々に見ていただけたら嬉しいです。



5月に掘り上げたチューリップの球根「川越いもの子作業所」さんのパンダビスケットがお土産でした



FRIDAY

第5回
7/4

暑い日が続いているため、長年防草シートに覆われていたため硬くなっていった土に少しでも水を浸透させるべくシャベルで土をグリグリと掘りました。アナベルとラベンダーはドライフラワーにするために摘んで吊しました。



FRIDAY

第6回
7/18

活動時間が13時半から夏時間の16時スタートになったため、初めて小学生2名が参加してくれました。新宿五丁目自治会集会所周辺に生えている「ねこじらし(エノコログサ)」で、うさぎ作りにも挑戦しました。

初参加の方もいらっしゃるだったので、お手入れ前にみなさんに『今ハマっていること』を伺いました。デコパージュ、新じゃが、押し花作り、そろばん、ライブ、梅酒作り、虫探し、メダカなどなど、みなさん多趣味！



FRIDAY

第7回
8/1

雨が降らない猛暑が続き、あらゆる生き物たちにとって過酷な夏。そんな中でも『あんだんがら夕方さす！』に参加者の方から摘み「花の観察ノートづくり」を行いました。

FRIDAY

第8回
8/22

前回に続いて夏休み特別企画の夏休み体験ミニワークショップ『草花の観察ノートづくり』をしました。観察したいお花の写真を1枚選んで、ガーデンへ！お手入れしながら写真のお花を摘んできて絵を描いて、特徴や気付いたことを書き込んで、みなさんオリジナル素敵な観察ノートが完成しました！



集会所前の花壇のお花も摘ませていただきました♪



FRIDAY
第9回
9/19

台風の影響で9/5の活動が中止となったため、1ヶ月ぶりの活動になりました。やっと秋らしくなり、夕方は涼しく活動できました。いつものお手入れの後に、ドライフラワーにしたラベンダーで手作りハーブソープを作りました。

『あらだんガーデン』のラベンダーは株がまだ小さく、今年は一束だけの収穫だったので、坂戸市『きらこまナチュラルシンフォニーガーデン』さんからおすそわけいただいたラベンダーも使わせていただきました♪



FRIDAY
第10回
10/10

朝晩は肌寒い日が増えました。人も植物たちも過ごしやすい季節になりました。マリーゴールド、ジニアなどの一年草（1年以内に枯れてしまう草花）は次回植え替えるため、きれいな盛りについてより多めに摘んで、みなさんのお土産にしました。

お手入れの後は、新宿小学校で開催される『地域ふれあいまつり』『SDGsコミュニティガーデン』ブースで行う予定のワークショップ『ペーパーポット作り』をみんなで試行錯誤しながら夢中で練習しました。



川越市自治会連合会
第十一支会
下條 (しもじょう) さん



SATURDAY
地域
ふれあ
まつり
11/8

参加者有志のみなさんと一緒に、新宿小学校で行われた『地域ふれあいまつり』に【SDGsコミュニティガーデンブース】として出店しました～！大人気の100円の花苗販売・ワークショップ「学校の葉っぱでリース作り」「花苗ペーパーポット作り」・あらだんガーデン活動展示をしました。



FRIDAY
第11回
11/14
植え替え

2025年最後の活動日。木村智子さんに秋植えの一年草、パンジー・ビオラ・ノースポール・チューリップなどの植え方を教えていただき、みんなでどんなデザイン・配置にしようか相談してから植えました。秋に植え付けたら基本的には次回の活動日（2026年4月17日）までお手入れしません。



1年前は防草シートに覆われていた『あらだんガーデン』。今では色とりどりの花が咲き、人も虫も集います。これまで関わってくださった全ての方、ありがとうございました。そして、これからもよろしくお願いいたします！



今年の活動もお楽しみに♪
ご都合の合う活動日に
どなたでもご参加
いただけます！

最新情報を『新宿町コミュニティガーデン』グループLINEでお知らせしています



【活動報告】庭から始める流域治水 ～「土中環境改善型浸透ます」1年の記録～

グリーンインフラ市民学会 栗原 薫（有限会社栗原造園）

川越市では、浸水被害軽減を目的とした「**雨水貯留浸透施設**」の補助金制度が運用されています。特筆すべきは、全国的にタンクのみ助成が多い中、川越市は「浸透ます」も含めた手厚い支援を行っている点です。これは下水道負荷の軽減だけでなく、**地下水涵養**にもつながる非常に意義深い施策です。

しかし、現在の基準はコンクリートや樹脂製の既製品が主流です。そこで私たちは、日頃から手がけている「土や微生物の力を活用した**土中環境改善***」による手法も有効な選択肢になり得ると考えました。

「伝統的な技法に、科学的な根拠（エビデンス）があれば」と思い、(同)アールアンドユー・リゾリューションズの尾崎昂嗣氏の協力のもと、自社敷地（南大塚4丁目）にて行った実証実験の1年目の結果を報告します。

土中環境改善*・・・空気と水が滞りなく動く循環（水脈）を再生し、微生物や植物の根が健やかに活動できる環境を整えること
参考図書：土中環境 高田宏臣著

「土中環境改善型浸透ます」とは？

単なる雨水処理にとどまらず、周囲の**土中環境の健全化を目的**とした施工方法です。

通常の浸透ますは、コンクリート製などの筒状のますを埋め込み、周囲を砕石で埋めます。一方、この土中環境改善型では掘削した穴に焼杭（浸透誘導木杭）を打ち込み、周囲に割栗石、竹炭、くん炭、落ち葉などを層状に充填します。

この構造により、土中に水と空気が循環する「水脈」を作り出します。浸透した雨水は落ち葉や炭の層を通る過程で浄化され、地中深くへと導かれます。こうした環境が整うことで土中の微生物が活性化し、周囲の土壌を多孔質な「団粒構造」へと変えていくと考えられています。ただし、これらは伝統的な造園技術に基づく経験的な知見が主であり、その環境改善効果の詳細な数値化や定量的な検証については、大きな課題とされています。

実験内容



①掘削: ハンドオーガーで直径20cm、深さ55cmの孔を掘ります。



②杭打ち: 長さ60cmの「焼杭」を打ち込み、浸透の拠点とします。



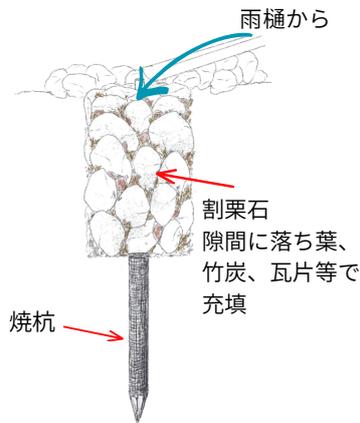


③充填: 割栗石を積み上げ、隙間に落ち葉、竹炭、籾殻燻炭、瓦片を層状に積み上げます。

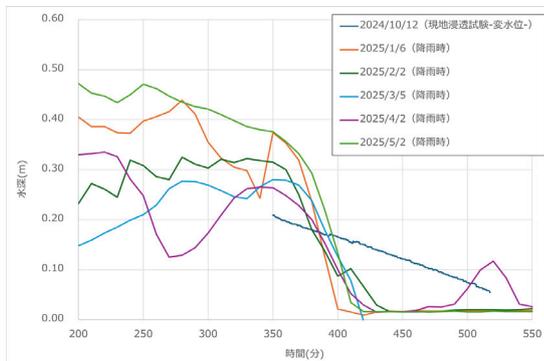


④完成。
真ん中の細い管は計測機器用です。
雨樋から雨水を誘導するよう造作します。
屋根の面積は14.4㎡
↓

土中環境改善型浸透ます 断面イメージ



イラスト：パッシブデザインプラス株式会社

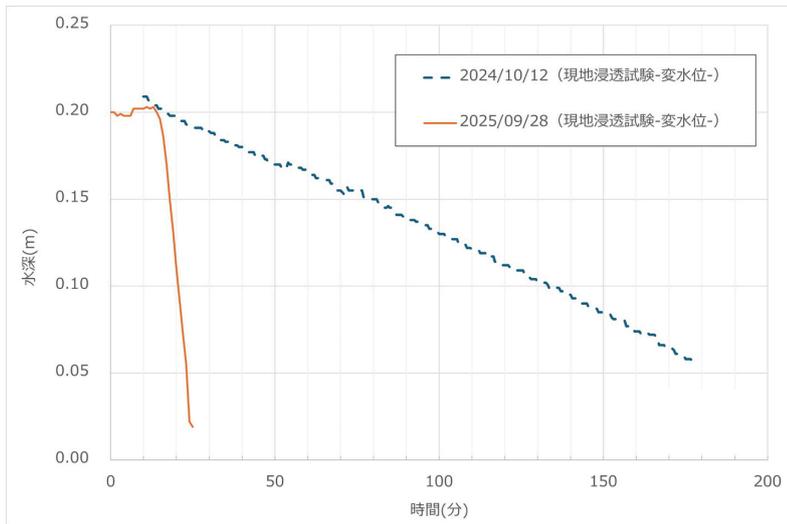


途中経過：雨が降り穴の中50cm近く貯まることはあっても溢れた形跡はない。また雨が止むと同時に速やかに浸透している様子が見られる。

2025.9.28掘り返してみた！



穴の側面は保たれ、植物の根が入り込んでいるのが見えます。充填した落ち葉は形を残していませんが、泥詰まりしている様子はありません。底の杭はそのままです。



検証

設置から約1年、土の状態を測定しました。
 底面から水深20cmまで水を貯めてその浸透時間を測ります。(変水位法)
 杭を打ち込むことで周囲の土が圧迫（締め固め）され、かえって浸透能力が落ちるのではないかと予想されます。しかし、約1年後の計測結果は予想以上の結果が得られました。

- 設置当初（2024年10月）青点線：20cm貯めた水が、3時間経っても6cm残っていました。
- 1年後（2025年9月）赤線：同じ量の水が、わずか数分で完全に浸透しました。

おわりに：今後の課題

これまで土中改善の効果については経験値や定説的な見解が示されがちでした。しかし今回の調査で、自然の力を借りたこうした手法が数値として明確な治水効果を持つ可能性が示されました。

もちろん、これはまだ一つの事例に過ぎません。またどの要素が効果に寄与しているのかはこの結果からは明確にすることはできません。しかし、こうした「自然の力で土壌を健全に保つ」技術が、これからの街づくりや、公的な補助制度の新たな選択肢として認められていくことのきっかけとなればと思います。

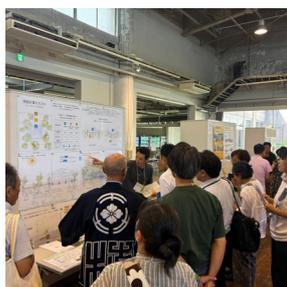
＊この実験の詳細については雨水貯留浸透技術協会 機関紙『水循環貯留と浸透2026年1月号』に掲載。

グリーンインフラ市民学会とは？

2024年の「わたしたりの雨水フォーラムin川越」での学びとつながりをきっかけに誕生した、市民主体の会です。「市民だからこそできること」「市民でもできること」を大切に、実験や経験、失敗さえも知恵として共有し、自然の力を活かした街づくりを共創する社会を目指しています。立場を超えた対話と実践を通じて、誰もが自分事として参加できるグリーンインフラを広めていきます。

2025.9.6 第15回雨水ネットワーク全国大会 水の環フォーラムin神戸

2025年は川越から神戸へ。雨水ネットワークとの協働でフォーラムを開催。全国40団体のポスターセッション（事例発表と交流）、200名全員参加によるディスカッションを行いました。



放課後教室「ふくっこ」の環境活動報告

福原ふくっこ運営協議会 横山三枝子

1. はじめに

この活動は、川越市教育委員会地域教育支援課主導で始まりました。「放課後に公民館で確保した部屋を活用して、地域の方々の参画を得て、学習の機会を提供することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進することを目的とする」を掲げて**2020年**から活動しています。大きくは、文部科学省の「全ての子どもたちに対して、学校の余裕教室、体育館、公民館等を活用して様々な取り組みを実施」とする『**放課後子どもプラン**』とも連携して実施されています。取り組み内容は地域の運営協議会に任されていて、まだまだ試行錯誤の活動です。

2. これまでの活動

活動日は、年間20回程、会場「福原市民センター2階」、金曜日の午後3時から午後5時まで、運営関係者は地域住民9名プラス地域教育支援課職員、時々初雁高校の生徒会やボランティアに興味のある高校生や大学生です。下校時間が遅いので、保護者のお迎えをお願いしています。対象者は、福原小学校に通っている全学年で、厚生労働省管轄の「学童」に参加している児童も含んでいます。2020年は登録24名、参加者（のべ）87名、2021年は24名、参加者170名、2022年は28名、参加者331名、2023年は30名、参加者435名、2024年は26名、参加者430名、2025年は44名、参加者110名（6月時）。2025年は希望者が増えたので、福原公民館2階、2部屋を利用しています。

今までの活動は、主に学習支援で宿題をメインに本読みや自主学習をした後、折り紙、百人一首（坊主めくりをメイン）、コマ作りをしていました。鉛筆の持ち方にクセがある児童が多かったので、時間制限しての「お箸でうずら豆運び」もしていました。また、福原公民館で利用している部屋は畳で、障子もあります。イマドキ珍しい部屋の造りで、障子と言えぱちょっとしたことで破れてしまいます。そこで社会的活動として「障子張り」を体験してみました

た。破れた障子の張り替えは、継続作業となっています。こんな放課後教室が18の小学校校区に開設されています。



障子張り



障子張り イラストを添えて



百人一首・坊主めくり

3. 2025年の活動

2025年は44名の参加希望があり、特に1年生が多く、約2時間が長い。「対応する関係者は高齢者中心なので、使用する部屋での運動系は危ない」と考えていた所、埼玉県「みどりの活動支援補助事業」募集要項を知り、昨年から手がけていた公民館敷地内での活動に使えると思い、応募し、補助金をもらえました。これで、学校、家庭以外の公共施設への関心を深める心が育ち、敷地内での植樹、整備活動で、土に触れることの少ない子どもの経験を増やす一石二鳥となりました。夏休みには、おむすびを自分で握る昼食付きのボタニカルアート教室も開催できました。10月に入ってから、敷地内の手入れに入りました。「社会活動します。」のかけ声で県から支給された緑の帽子をかぶり、軍手を付け、花バサミを持って草を刈り取ります。小学校でアサガオを植えて、観察をしています。草の名前など知らないのが当たり前。「これ何て名前？」「この虫なあに？」「これ切ってもいい？」暑い中おしゃべりしながら20～30分交代で荒れた草地をきれいにしていきます。花バサミの使い方もちょっとおぼつかないけど、一生懸命仕事してくれました。子どもたちの働き方も凄い、集中して頑張ります。10月17日は、花壇整備をプロに手伝ってもらい、ジンチョウゲ、シャリンバイを10株、指導を受けて植え込みました。この花壇には、地元の花木農家（ディズニーランドに卸している方）が苗を提供してくれていたの、今回もパンジー、アリッサムを頂き、植え込みました。今は花と花の間が開いていますが、暖かくなるのが楽しみな花壇となりました。夏休みの「ボタニカルアート」は継続して敷地内の植物図鑑作成をしたかったのですが、準備に時間がかかるので、来年の夏休みに持ち越しです。



ボタニカルアート教室



2年目のバイオネスト
草刈り中 刈り始め、刈り終わり



10月17日 植え方の指導を受けて



作業風景 ジンチョウゲ



パンジーとアリッサム

4. 終わりに

公民館という公的な敷地内で「みどり」の活動が出来たことは、とてもありがたいことです。ここが職員の理解と、地域住民の協力、そして、児童が関われる継続活動が出来ることが「三間（時間・空間・仲間）」を満たし居心地のよい空間になってきたと思います。子どもたちに伝えたい地域コミュニティーのひとつとして、来年も「みどりの活動支援補助事業」を活用し身近な緑の創出に協力していきたいと思います。



(左) 1年目、(右) 2年目のバイオネスト

落ち葉・枝・草対策 (SDGs です)



7月作成インセクトホテル

2025 年 小畔川を楽しむ ― 魚類調査と川遊び

小畔川の自然を考える会

「小畔川の自然を考える会」の前身は（公財）埼玉県生態系保護協会のプロジェクトチームです。魚類など川の生き物にとって、どのような環境が住みやすいのか、をテーマとして小畔川流域の魚類調査を 2002 年から 8 年間続けました。御伊勢橋上流と八幡橋下流を対比する調査では、瀬や淵があり護岸も土で自然に蛇行している八幡橋付近の方が魚種や個体数も多いという結果を得ることができました。その後、2010 年から環境ネット会員団体「小畔川の自然を考える会」としてスタートし、八幡橋周辺の定点調査を中心に活動しています。ここ数年は調査範囲を入間川にも広がっています。今回は 2025 年の活動を中心にお伝えします。

(1) 鎌取橋上流域

調査日：2025 年 6 月 27 日(金)9 時～11 時 天候：晴れ
気温：29.6℃ 水温：26.5℃ 6 名参加

この流域は護岸がコンクリートではなく自然に近い土羽なので、水の流れも大雨の後などで変化があります。瀬や淵の位置が移ったり、中洲の位置もずれたりすることがあります。それだけ魚にとって多様な環境が生まれ稚魚やエビにも隠れ場所がたくさんあるということです。

今回は水生昆虫を中心に調査をしました。トビケラ、カワゲラの幼体、ダビドサナエ、ハグロトンボのヤゴ、シジミなどが採捕されました。魚類は オイカワ、ニゴイなどです。



クロカワムシ

ヒゲナガカワトビケラ



ナミヒラタカゲロウ

(2) かほく運動公園前水辺再生地

2025 年 7 月 25 日(金) 8:00～10:00 天候：晴 気温：32℃ 水温 28℃ 6 名参加

ここは平成 22～24 年の県の事業「水辺再生 100 プラン」で整備されました。当時（公財）埼玉県生態系保護協会のプロジェクトチームであった時に落差工の改善、ワンドの設置などの提案をして取り入れられました。その後、毎年調査をしています。魚の種類も豊富で稚魚も多く見かけます。深みには大きなコイやブラックバスがいます。オイカワ、モツゴ、トウヨシノボリなどがよく採捕されていますが、これらを餌にしているのかと思います。たしかにここはバス狙いの釣り人が多いです。



コイ 11cm



ブルーギル 11cm



オオクチバス



カマツカ

(3) 小畔川魚とり遊び イベント 共催：自然環境部会、小畔川の自然を考える会

日時：2025年9月27日(土)9:30~12:00

実施場所：かほく運動公園向い側、小畔川親水ゾーン

参加者：26名 スタッフ：9名

6月中旬からの猛暑もお彼岸で一服です。その後は気温も30度を下回り、好天続きで当日は爽やかな風もあるイベント日和になりました。川の水位も平常通りでコンディションはこれまでで最高でした。小畔川は大河でも小川でもなくほどほどの河川で、水量もほぼ年間一定で魚類も多く親しみやすい河川です。2018年からこのイベントを実施していますが、毎回すぐに定員オーバーになるほど人気です。今回も小学校5年生までのお子さんが13名、親御さんが13名です。続きは自然環境部会の観察会・イベントの報告をご覧ください。

(4) 入間川 川越橋周辺

2025年10月24日(金) 9:30~11:00 天候：晴 気温：18℃ 水温16.7℃ 6名参加

久しぶりに入間川に出向きました。川越橋周辺の水域です。

水は清冽で気持ちいいです。早瀬のところで水中昆虫を探しましたがあまり見つからなかったです。手網のガサガサではエビ、ヤゴがかり、投網ではカマツカ、オイカワなどがかりました。全体に種類が少なかったです。そういえばサギ類もいなくて獲物がいなかったからでしょうか。



(会員：沖本 池田 森田 平松 賀登勉 賀登環)

2025年 川越フォレストクラブの活動報告

川越フォレストクラブは、武蔵野の原風景である雑木林の生態系を生かして手入れする目的で設立されました。人や動植物の安らぎの場所としたい思いがあります。2020年コロナ禍の夏に有志で話し合いを始め、同年10月5日に発足しましたので5年目の報告です。以下を規約としています。

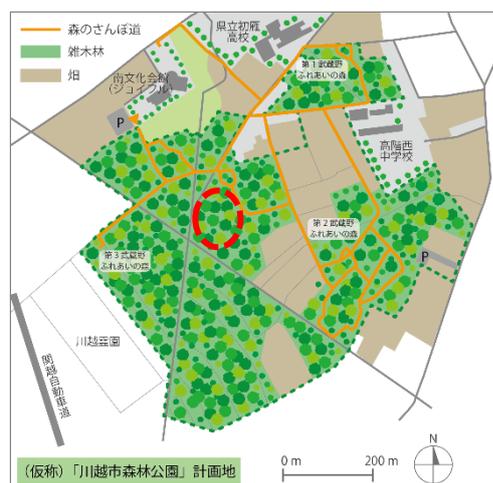
- ① 活動エリアは当面「(仮称)川越市森林公園」計画地とする
 - ② 生物多様性保全のため、「かわごえ環境ネット自然環境部会」と連携して活動する
 - ③ 組織は世話役を2名以上おき、公園整備課、環境政策課、環境ネットと連絡をとる
- メンバーはNPO埼玉森林サポータークラブの川越在住の方10名ほどと自然環境部会で雑木林の保全・調査をする方5名の15名ほどで活動開始しました。現在は少しメンバーが減りました。

森林保全再生活動は地道でありますので、今後も息の長い活動が持続できるよう、無理なく、そして事故やケガ人も出さず、「楽しく来て、楽しく帰る」をモットーに頑張っています。

活動を振り返って

2024年の活動 「リョウブの森」の手入れ

1月10日(水) 3月13日(水)



春蘭の花

このエリアは何年も手が入らず倒木、落枝と藪状で歩くことも難しかったが、1年かかってやっと見通せるようになりました。

9月11日(水) 11月13日(水)

この日から右図赤い丸のある針葉樹の多いエリアの手入れをしました。近くの保育園児が「何してるの」と見ながら散歩しました。



2025年 1月8日(水) 3月12日(水)

この森はほとんど手入れされずにきているので、枯損木が多いです。高さが20mあろうかというコナラの枯れ木を倒すことになりました。受け口を入れ、追い口にクサビを打ち込むと、大きな音を立て倒れました。倒れた途端に覆っていた樹皮が剥がれ落ち、グズグズになった中から、いっぱいカブトの幼虫が出てきました。この枯れ木は最後まで生き物の住処になっていたことに、皆、感激でした。近くを散歩していた保育園児に声をかけると、彼らも「見せて、見せて」としばし賑やかでした。幼虫は土の中に丁寧に埋めてあげました。



5月14日(水) 9月10日(水)



11月12日(水) 「森で遊ぼうーやってみようネイチャーゲーム」の会場整備



センブリ 準絶滅危惧 (NT)

(報告：沖本八十陽、賀登環)

(連絡先：049-234-9366 賀登)

3. 付録

第24回かわごえ環境フォーラム

プログラム

2026年2月28日(土)

ウェスタ川越2階活動室1・2

9:30-11:45 ① かわごえ環境活動報告会 (受付 9:15~)

9:30- 9:45 開会 (司会: 菊地三生 かわごえ環境ネット理事)

9:45-11:45 環境活動報告 (7件)

(1) 栗原薫・青柳遥 (こどもエコクラブ・ワンダーなんだあくらぶ):

こどもエコクラブ ワンダーなんだあくらぶ 活動報告

(2) 小池ひかる (川越女子高等学校生物部):

川越市のサクラに襲い来る黒い影~クビアカツヤカミキリによる被害について~

(3) 栗原薫 (グリーンインフラ市民学会・(有) 栗原造園):

庭から始める流域治水~「土中環境改善浸透ます」1年の記録~

(4) 増田純一 (かわごえ里山イニシアチブ):

土壌菌解析から見る農の未来と地球温暖化抑制の可能性~環境にやさしい農業が地球を守る~

(5) 山中和郎、宮澤宏次、過昌司 (こどもヤマ守り活動):

こどもと一緒に林の自然再生に取り組んで

(6) 増田知久 (かわごえ環境ネット): 社会環境部会の活動報告

(7) 賀登環 (かわごえ環境ネット): 自然環境部会の活動報告

11:45-12:00 ② サウンドスケープ実演 (パイオニア株式会社)

12:00-13:00 休憩

13:00-14:00 ③ 講演会 (受付 12:45~)

13:00-13:15 開会 (司会: 飯島希 かわごえ環境ネット理事)

13:15-14:00 講演会

【講師: 田中邦和 (小江戸南古谷農園代表)、稲田敏 (いなぼこファーム代表)、
増田知久 (川越ぐうすファーム代表)】

14:00-14:15 休憩・意見交換会準備

14:15-15:45 ④ 意見交換会「広めよう! 環境にやさしい農業」

【司会: 飯島希 かわごえ環境ネット理事、パネリスト: 田中邦和 (小江戸南古谷農園代表)、

稲田敏 (いなぼこファーム代表)、増田知久 (川越ぐうすファーム代表)】

15:45-16:00 総括・閉会

かわごえ環境ネットインターネットアクセス (QRコード)



ホームページ



YouTube



Facebook



note



Instagram



X



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

かわごえ環境ネットは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



かわごえの環境について
一緒に考えましょう！

第24回 かわごえ環境フォーラム

日時・場所

2026年2月28日(土)

時間：9:30～16:00 (9:15開場)

場所：ウェスタ川越2階 活動室1・2

川越市新宿町1-17-17 川越駅西口から徒歩5分

参加費無料

定員100名

●プログラム

[午前の部] 9:30～12:00

かわごえ環境活動報告会

川越市内で環境をよくしていくために活動している市民の報告会です。

詳しい内容はかわごえ環境ネットHPに2月上旬に掲載します。

[午後の部] 13:00～16:00

講演&意見交換会

広めよう！環境にやさしい農業

川越市内で活躍中の若手農家3名に、環境にやさしい農業の実践についてお話しいただきます。

内容について、詳細は

かわごえ環境ネットHP→



午後の部 講師紹介



小江戸南古谷農園
代表 田中 邦和



いなぼこファーム
代表 稲田 敏



川越ぐうすファーム
代表 増田 知久

川越管轄で「みどりの認定」第1号取得。熱いハートを持った次世代を先取りする若手農家のリーダー

就農4年目の自他ともに認める菌オタク。農業も化学肥料も使わない「循環型農業」にチャレンジ中

「米づくりは風景をつくること」をモットーに市内笠幡エリアで環境にやさしいお米づくりを実践する若手農家

参加申込・問い合わせ：かわごえ環境ネット事務局（川越市環境政策課環境推進担当）

TEL: 049-224-5866 MAIL: kankyoseisaku@city.kawago.e.lg.jp

主催：かわごえ環境ネット 後援：川越市

協賛：パイオニア株式会社川越事業所、武州ガス株式会社、

株式会社環境総合研究所、初雁興業株式会社、カナデビア株式会社



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

かわごえ環境ネットは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

第24回 かわごえ環境フォーラム 「環境活動報告集」への投稿・発表者募集

「投稿・発表申込書」提出期限
2025年12月15日（月曜日）

レポート投稿最終期限
2026年1月19日（月曜日）

ウェスタ川越で発表
2026年2月28日（土曜日）

「第24回 かわごえ環境フォーラム」を開催します。この行事によって、各々の環境活動と役割を相互に理解し、川越市の望ましい環境像実現のための取組がいっそう活発になることを期待します。開催にあたって、環境活動をされている個人・団体からの環境活動報告を広く募集します。個人・団体の年間の活動報告を冊子に集積して情報共有を図ります。みなさまの積極的な応募をお待ちしています。

開催日時：2026年2月28日（土曜日）9:30-16:30

開催場所：ウェスタ川越 市民活動・生涯学習施設 活動室1・2（2階）
（川越市新宿町1-17-17、川越駅西口から徒歩5分）

予定されている行事：

午前 市民・民間団体・事業者・行政による環境活動報告会

午後 環境に関する講演会・シンポジウム・ワークショップなど

主催：かわごえ環境ネット

発表・展示の応募要項

1. まず「投稿・発表申込書」を送ってください（2025年12月15日締切）

■投稿及び発表資格

川越市内在住、在勤の個人及び川越市で活動をしている事業者、民間団体、行政。また、これらに該当しない個人、民間団体、事業者、行政において、川越市に関する活動、調査、研究報告ができる者。かわごえ環境ネットの会員・非会員問わず応募できます。

■投稿できる内容

川越市の環境に関する計画、活動、調査、研究、提案や、環境に配慮した製品、サービスの紹介など、「第三次川越市環境基本計画」に示された事項に関係する内容とします。詳細は4ページ目の「第三次川越市環境基本計画の概要と環境活動報告のテーマ例」をご覧ください。ただし、公序良俗に反するものや特定の相手を非難するものは投稿できません。

■「かわごえ環境活動報告集」への投稿件数・掲載料

個人、団体とも何件でも投稿できます。掲載料は無料です。

■「かわごえ環境フォーラム」における発表件数

発表は最大で12件程度です。

申込多数の場合は、当行事の実行委員会にて調整させていただくことがあります。

■申込方法と期限

2025年12月15日（月）までに、6ページ目にある「投稿・発表申込書」（E-mailの場合は同様の内容であれば書式自由）に必要事項を記入の上、かわごえ環境ネット事務局に直接、郵送、Fax、E-mailのいずれかの方法で申し込みください。

2. 発表者はレポートを投稿してください（2026年1月19日締切）

■原稿（Word形式のテンプレートを「かわごえ環境フォーラム」ホームページに掲載）

枚数：A4サイズで4枚以内にまとめてください。

余白：上下左右20mm以上とってください。

体裁：自由です。すでに他の目的で作成した原稿を使用しても構いません。ただし、レポートのタイトルと投稿者の氏名・所属または団体名を必ず記入してください。文字だけでなく図表や写真も入れられますが、印刷は白黒となります。また、小さい文字、図表、写真はつぶれてしまうこともありますので注意してください。印刷・製本：原稿をそのまま版下原稿として印刷し、『かわごえ環境活動報告集』として製本します（電子版も公開します）。

■投稿方法と期限

2026年1月19日（月）までに、版下となる原稿をかわごえ環境ネット事務局までE-mail（WordまたはPDF形式）又は郵送、あるいは窓口へ直接提出してください。なお、パソコンで原稿を作成している人は、写真の印刷精度を確保するため、できるだけ電子データでの提出をお願いします。

3. フォーラム当日の発表について (2026年2月28日)

■発表方法

「かわごえ環境活動報告集」に投稿した内容にしたがって、スライドなどを用いて発表していただきます。

■発表順序及び発表時間

発表順序は主催者で決定させていただきます。なお、発表時間は、12件発表がある場合、1件あたり10分程度となります。具体的なプログラムは2月上旬までにお知らせするとともにかわごえ環境ネットホームページにも掲載します。

■発表方法

会場においてPCで作成したスライドをプロジェクタで投影して発表していただきます。会場におけるPCは、原則として主催者が用意するものを使用していただきます (Mac版 Microsoft PowerPoint, Adobe Acrobat DC インストール済み。フォントはWindows標準フォントをお願いします)。データは、大容量ファイル転送システムなどを利用して事前に事務局に送付していただきます。

4. その他

■発表に際しての注意

「かわごえ環境フォーラム」において発表を行うには、投稿・発表申込書による申し込みとともに、原則として「かわごえ環境活動報告集」へのレポートの提出をお願いします。

■費用

環境活動・調査・研究等にかかる費用、及びレポート作成・発表等にかかる費用は、すべて報告者の負担をお願いします。

■申込・提出・問い合わせ先

かわごえ環境ネット事務局

〒350-8601 埼玉県川越市元町1-3-1 川越市 環境部 環境政策課 環境推進担当

Tel.049-224-5866 (直通), Fax.049-225-9800

E-mail: 24thforum@kawagoekankyo.net (期間限定の本行事専用アドレス)

■テンプレートの入手先

かわごえ環境ネットホームページ

<https://kawagoekankyo.net/news/documents/forumdoc.docx>

第三次川越市環境基本計画の概要と環境活動報告のテーマ例

■第三次川越市環境基本計画の概要

○計画の目的・期間

川越市良好な環境の保全に関する基本条例に基づき、本市の良好な環境を保全・創造し、次の世代も含めた市民が快適に暮らすことができるような各種の施策を総合的かつ計画的に推進することを目的とします。市民、事業者、民間団体及び市が各主体の責務に応じた役割分担及び協働のもとに、本市の将来の望ましい環境像を実現することを目指します。平成 26 年度を基準年度として、目標年度は令和 7 年度とします。

○対象とする環境の範囲

地球環境	地球温暖化（資源、エネルギー）、酸性雨、気候変動、その他の地球環境問題 等
生活環境	典型 7 公害（大気汚染、水質汚濁、騒音、振動、悪臭、土壌汚染、地盤沈下）、都市生活型公害、化学物質、廃棄物、放射性物質 等
自然環境	地形・地盤、動植物、生態系、生き物の生息・生育空間、水辺、田、畑、河川、樹林地、水の循環 等
快適環境	都市の緑化、歴史・文化、景観、交通、自然災害 等

○望ましい環境像

みんなでつくる、自然・歴史・文化の調和した人と環境にやさしいまち

○環境目標

1	地球環境にやさしく、豊かさを実感できる二酸化炭素排出の少ないまちを実現します「低炭素」
2	資源の循環的な利用を促進し、ごみを減らした美しいまちを実現します「循環」
3	自然を大切にし、ともに生き、次の世代に引き継ぎます「自然共生」
4	健やかな暮らしのできる環境を確保し、市民の健康を守ります「安全・安心」
5	市民、事業者、民間団体との協働により、歴史と文化を生かし、快適に暮らせるまちを実現します「地域づくり・人づくり」

■環境活動報告のテーマ例

○家庭における取り組み

- ・川越市環境行動計画に関する取り組み（チェックシートの実施結果）
- ・地球温暖化対策（エコチャレンジファミリー・環境家計簿の報告）
- ・ごみの減量・資源化への取り組み
- ・緑のカーテンの取り組み
- ・省エネ機器・改修の効果
- ・その他家族ぐるみの環境に対する取り組み

○企業における取り組み

- ・環境マネジメントシステムへの取り組み
- ・環境コミュニケーションの取り組み
- ・カーボンニュートラルに向けた取り組み
- ・SDGs に関する取り組み
- ・環境に配慮した製品・システムの研究開発

○団体における取り組み

- ・地球温暖化対策
- ・資源循環の取り組み
- ・自然保護や生物多様性保全への取り組み
- ・防災の取り組み
- ・景観や町並み保全の取り組み
- ・SDGs 達成に寄与する取り組み

○学校・大学における取り組み

- ・環境教育の取り組み
- ・エコチャレンジスクールの取り組み
- ・川越の環境に関する調査・研究の報告

○その他、調査・研究・提案

- ・水、空気、熱などの環境調査
- ・生きもの調査
- ・他地域における環境活動の紹介
- ・川越市の環境に対する提案・提言



かわごえ環境ネット 組織案内

●設立の目的

かわごえ環境ネットは、川越市で1998（平成10）年3月に策定された「川越市環境基本計画」に基づき、市民、事業者、行政、さらに民間団体がパートナーシップを形成し、それぞれが役割を理解しつつ実行できるよう、協働して行う事業について情報提供や調整を図るための組織として2000（平成12）年8月5日に設立されました。

地域ぐるみで川越市の望ましい環境像を実現するためにさまざまな活動をしています。

●活動内容

かわごえ環境ネットでは、環境に関するイベント等を開催し、提案や活動成果の発表、意見交換などを行っています。主な活動は次のとおりです。

1. 環境活動に関する情報の提供（広報、ホームページ）
2. 協働して行う事業についての情報提供や調整
3. 環境に関するイベントの開催
4. 専門委員会（部会）活動
5. 提案、活動内容の報告
6. 普及啓発、意見交換

●会員資格

川越市に在住または在勤の個人、市内で環境に関する活動をしているまたはこれから活動しようとしている構成員が5人以上の民間団体、市内に所在する事業所及び事業所を構成員とする団体であれば、だれでも会員になれます。

●会員の特典

1. 広報かわごえ環境ネットや会員からのおしらせを隔月で郵送します
2. 広報やインターネットにイベント情報や会員情報を掲載します
3. かわごえ環境ネットが主催する事業（見学会、研修会など）へ優先的に参加できます
4. 総会、専門委員会（部会）へ参加できます

●入会申込など詳細は（かわごえ環境ネット事務局／ホームページ）

[事務局] 〒350-8601 埼玉県川越市元町1-3-1 川越市環境部環境政策課環境推進担当
Tel.049-224-5866（直通）, Fax.049-225-9800

E-mail: kankyoseisaku@city.kawagoe.lg.jp

[ホームページ] <https://kawagoekankyo.net>

第24回 かわごえ環境フォーラム

投稿・発表申込書

記入日： 年 月 日

宛先：Fax.049-225-9800
かわごえ環境ネット事務局
(川越市環境部環境政策課内)
*メールで同様の内容による申込可

タイトル
氏名(所属) 発表者： () 連名者：
報告内容の概要
発表方法(発表・展示者は原則としてレポート投稿をお願いしています) <input type="checkbox"/> レポート投稿・発表 <input type="checkbox"/> レポート投稿のみ
申込者(自宅・勤務先・その他←当てはまるものに○) 氏名(+ふりがな)： 連絡先 〒 電話： Fax： E-mail:
その他連絡事項

「投稿・発表申込書」提出期限 2025年12月15日(月曜日)
レポート投稿期限 2026年1月19日(月曜日)

かわごえ環境ネット会則

(名称)

第1条 この会は、かわごえ環境ネット（以下「本会」という。）と称する。

(目的)

第2条 本会は、川越市環境基本計画に基づき、市民、事業者、行政、さらに民間団体がパートナーシップを形成し、それぞれが役割を理解しつつ実行できるよう、協働して行う事業について情報提供や調整を図ることにより、地域ぐるみで本市の望ましい環境像実現のための取り組みを活発にすることを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- ・ 会員相互のパートナーシップとネットワークを形成するための事業に関すること。
- ・ 会員それぞれが役割を理解し協働して行う事業に関すること。
- ・ 環境に関する情報提供及び普及啓発に関すること。
- ・ その他目的達成のために必要な事業に関すること。

(会員)

第4条 会員は、本会の目的に賛同して入会した次のものとする。

- ・ 市内に在住または在勤の個人
- ・ 市内で環境に関する活動をしている又はこれから活動しようとしている構成員が5人以上の民間団体
- ・ 市内に所在する事業所及び事業所を構成員とする団体
- ・ 川越市
- ・ その他理事会で承認されたもの

(会費)

第5条 会費は、年会費1口金1,000円とし、次のとおり定める。

- ・ 個人 1口
- ・ 民間団体 2口
- ・ 事業所 2口
- ・ 川越市 2口
- ・ その他 理事会の決定による。

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

- ・ 理事長 1人
- ・ 副理事長 2人
- ・ 理事（理事長及び副理事長を含む。） 20人以内
- ・ 監事 2人

2 理事長は、本会を代表するとともに、業務を統括する。

3 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故があるときは、その職務を代理する。この場合において、職務を代理する副理事長の順序は、あらかじめ理事長が指定するものとする。

4 理事は、理事会を構成し、会則の規定及び理事会の議決に基づき、本会の業務を執行する。

5 監事は、本会の業務の執行状況を監査する。

6 理事及び監事は会員の中から総会で決定し、理事長及び副理事長は理事の互選により定める。ただし、理事が欠けた場合の後任の理事については、理事会で決定することができる。

7 役員任期は、2年とする。ただし、補欠の任期は、前任者の残任期間とする。

8 役員再任は妨げない。

(総会)

第7条 総会は、本会の最高議決機関とし、年1回以上開催する。

2 総会は、理事長が招集し会員の半数の出席をもって成立する。

3 総会の議事は、出席者の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 総会は、次の事項を審議し、決定する。

- ・ 事業計画、予算に関すること。

- ・ 事業報告、決算に関すること。
- ・ 役員を選出に関すること。
- ・ 会則の改正に関すること。
- ・ その他理事会で必要と認めたこと。

(理事会)

第8条 理事会は、次の事項を審議し、決定する。

- ・ 総会議案に関すること。
- ・ その他本会の運営に関して必要な事項

2 理事会は、理事長、副理事長及び理事をもって構成する。

3 理事長は、会務を総理し、会議の議長となる。

4 理事会は、理事長が招集する。

5 理事会は、理事の半数以上の出席をもって成立する。

6 理事会の議事は、出席理事の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

7 監事は理事会に出席し、必要に応じて意見を述べるができる。

(総会及び理事会における書面表記等)

第9条 やむを得ない理由により、総会に出席できない会員は、他の会員を代理人として表決を委任することができる。この場合において、第7条第2項及び第3項の規定の適用については、出席したものとみなす。

2 前項の規定は、理事会について準用する。この場合において、同項中「総会」とあるのは「理事会」と、会員とあるのは「理事」と、「第7条第2項及び第3項」とあるのは「前条第5項及び第6項」と読み替えるものとする。

(専門委員会)

第10条 各会員の主体的活動を促進し、第2条の目的を達成するため、専門委員会を設置することができる。

2 専門委員会の設置は、理事会が決定する。

3 専門委員会の運営は、各委員会が自主的に行う。

4 専門委員会は、活動状況を随時理事会に報告する。

(事務局)

第11条 本会の事務局は、川越市環境部内に置き、庶務及び会計事務を処理する。

(会計及び会計年度)

第12条 本会の運営に要する経費は、会費及びその他の収入をもって充てる。

2 本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(会則の改正)

第13条 この会則は、総会の議決により改正することができる。

(委任)

第14条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関して必要な事項は、理事長が別に定める。

附 則

この会則は、平成12年8月5日から施行し、会費については平成13年度から適用する。

附 則

この会則は、平成16年6月5日から施行する。

附 則

この会則は、平成19年5月26日から施行する。

附 則

この会則は、平成26年5月24日から施行する。

附 則

この会則は、平成29年5月27日から施行する。

会 員 構 成

(R8.2.6現在)

会員区分	会員数
個人	134
民間団体	19
事業者	25
行政	1
会員合計	179

No.	会員区分	団体・事業所等の名称
1	民間団体	入間川にサケを放す会
2		EMネットワークはつかり
3		NPO 法人川越蔵の会
4		NPO 法人かわごえ里山イニシアチブ
5		川越市自治会連合会
6		川越フォレストクラブ
7		川越緑のサポーター
8		小畔川の自然を考える会
9		埼玉県生態系保護協会 川越・坂戸・鶴ヶ島支部
10		(公財)埼玉YMCA川越センター
11		新河岸川を守る会
12		新日本婦人の会川越支部
13		東洋大学小瀬研究室
14		福原ファームクラブ
15		福原水と緑の会
16		不老川を守る会
17		NPO 法人武蔵丘陵森林公園の自然を考える会
18		ムサン航空連盟(MKR)
19		わたしたちのアクション
1	事業者	株式会社東興業
2		アトレテナント会
3		いいことクリエイション合同会社
4		会計スタッフサービス株式会社
5		カナデビア株式会社 東京本社
6		川越環境保全連絡協議会
7		川越市角栄商店街振興組合
8		川越総合卸売市場株式会社
9		川越緑地協会
10		株式会社環境総合研究所
11		着物レンタル梨花和服 川越店
12		行政書士 栗原誠オフィス
13		経営懇話会
14		昭和工業株式会社
15		第一生命保険株式会社 川越支社
16		第一電装部品株式会社
17		ダイキエンジニアリング株式会社
18		通信興業株式会社
19		テイ・エステック株式会社埼玉工場狭山製造部
20		東京国際大学
21		パイオニア株式会社 川越事業所
22		初雁興業株式会社
23		初野建材工業株式会社
24		武州ガス株式会社
25		増田総業株式会社
1	行政	川越市

Pioneer



会話するドライビングパートナー

NP1

カーナビも、ドライブレコーダーも、クルマの便利がこれひとつに。

詳しい商品情報は
こちらから



次世代通信型
ドライブレコーダー

映像を前方十車内/後方2つのカメラで録画。クラウドにも保存
できるから、もしものときも録り逃しの心配がありません。さらに、
スマホで簡単に確認もできます。



スマート音声ナビ

目的地の検索から案内、運転中のルート情報確認まで、画面を
見たり、タッチすることなく、声だけで操作。案内するナビ機能を
搭載。いつもの運転がぐっと安全でスムーズに変わります。



クルマ Wi-Fi

Wi-Fiスポット機能にも対応。車室内のオンライン化で「退屈」を
「楽しさ」に変えて、もっと自由に楽しいドライブに出発しよう。
※クルマWi-Fiの利用には、別途docomo In Car Connect
の申込が必要となります。(https://docomo-icc.com/icc)



もっとカーライフ++

ドライブをもっと便利に・楽しくする、まったく新しい機能が充実。
ご購入いただいた後も新機能の追加やアップデートを定期的
に行いながら、新しいカーライフ体験を提供します。

地域発展のエネルギー

武州  ガス



© 武州ガス / SAKURAI-P

武州でんき

武州ひかり

川越市田町32-12 TEL(049)241-9000



株式会社 **環境総合研究所**



埼玉県
SDGsパートナー



- 環境調査・環境アセスメント ■ 行政計画策定支援(自然環境・社会環境) ■ 環境保全活動支援
- ネイチャーポジティブ・コンサルティング



- 📌 自然共生サイトへの登録支援
- 📌 自然・生物多様性の価値調査
- 📌 自然資本を活用した新規事業創出
- 📌 観察会や研修等のイベント企画
- 📌 IR・情報開示支援(TNFD)



計量証明事業(濃度、音圧レベル、振動加速度レベル) / 作業環境測定 / 建築物飲料水水質検査業
建設コンサルタント / 第2種臭気測定認定事業所 / 土壌汚染対策法指定調査機関

〒350-0844 埼玉県川越市鴨田592-3 Tel: 049-225-7264 <https://www.kansouken.co.jp/>



建設会社だからこそ、 地球環境を考え行動します

「社会にあってなくてはならない会社にしよう」を目標に、地域の皆様や社会の発展のために尽力してまいります。

環境問題に積極的に取り組み、地球環境の保全に貢献します。



HAZKARI

初雁興業株式会社

埼玉県川越市大字鯨井 1705-2

TEL: 049-231-0800 (代)

【埼玉県環境 SDGs 取組宣言企業】

ISO9001、ISO14001 認証取得、COHSMS (コスモス) 認定証取得、埼玉県エコアップ認証取得



Kanadevia

Technology for people and planet

技術の力で、人類と自然の調和に挑む

カナデビア株式会社

本社：大阪府大阪市住之江区南港北 1-7-89

TEL：06-6569-0001

東京本社：東京都品川区南大井 6-26-3 大森ベルポートD館15階

TEL：03-6404-0800



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

かわごえ環境ネットは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

第 24 回 かわごえ環境フォーラム かわごえ環境活動報告集

発行：2026 年 2 月 28 日
主催：かわごえ環境ネット

事務局：川越市環境部環境政策課
〒350-8601 埼玉県川越市元町 1-3-1
Tel: 049-224-5866, Fax: 049-225-9800
Email: kankyoseisaku★city.kawagoe.lg.jp
(メールを送信する際は、★を@に変換してください)
ホームページ <https://kawagoekankyo.net>